

登場人物

エイアーヌ・パーキンソン・シンプソン
ベルトラン・ルプラン（通称「タッチ」）
マニユエル・シエラ（通称「ショック」）

〈装置〉

かつては豪華だったであろう荒れ果てた古い家の客間。下手に一段高いバルコニー、あるいは壇、幕が開いたときカーテンが閉まっている。何段かのステップがついている。上手にはまさに小さなステージ、小舞台、昔はここに、ミセス・パーキンソン・シンプソンの友達たちが「登場した」。ここもやはりカーテンが閉まっている。奥の、中央上手寄りに、まさに一種の「抜け穴」という感じの窓。その抜け穴の上に特別な仕掛け。単純だが巧妙に出来ている。滑車と鎖のついた一種の「ギロチン」で、いざという時には落ちてきて、抜け穴を完全にふさぐ。鎖はバルコニーまで続いていて、そこでミセス・パーキンソン・シンプソンがそれを操作している。舞台の奥を隠すために（仕掛けとぬけ穴の部分のをぞいで）ゴブラン織りが破れて埃だらけになったカーテンがさがっている。ステージとバルコニーの下の間の空間に、カバーのかかっている家具がいくつかばらにひっくり返っている。あちこちに照明器具がある。ミセス・パーキンソン・シンプソンが演劇的に人生を生きているからだ。

第一幕

幕があいてしばらくの間、外で降っている強い雨の

音が聞こえている。

ベルトランとマニユエルが「窓」をあけようとして
がたがたやっている音も、ずっと聞こえている。

しばらくの間、舞台は真暗。やがて板がばりばり割
れる音と、二人の男の声が聞こえる。

ベルトランの声 よし！ ぶち抜いたぞ！

一筋の光。ベルトランの懐中電灯が舞台の中央を照
らす。

マニユエルの声 中はどうなんだ？

軽いスペイン訛り。

ベルトランの声 見えないよ、何にも！ 真暗だ！ 気をつけないと頭

ぶち割るぞ！

マニユエルの声 おい、早くしろよ？ 何ぐずぐずしてるんだ。尻のほ

うから入ったほうがいいぞ。

ベルトランの声 だったら、かわれよ、畜生！ お前の方が若いんだろ

う、やせてんだろう。

マニユエル へっ、だけど先に入るって云ったのはあんただぜ。さっさ

と、飛びおりろよ。ひでえ雨だ。これじゃ風邪ひいちゃう

よ。

マニユエルがしゃべっている間に、ベルトランはマ

ニユエルが言ったように、まず頭を突っこまずに、

うしろ向きになり、足で床を探る。

ベルトラン よしと。ぶつつぶれる心配はなさそうだ。おい！ おりろ

よ（マニユエルが楽に飛び降りられるように身をかがめる。

彼らは「窓」の前で、立ったまま一息入れる。今度はマニ

ユエルが懐中電灯を持って、部屋中を照らす。客席に見え

るのは、カーテンの閉まったステージと、カバーが掛って

ひっくり返っている家具だ）畜生！ 何だこりゃ！ ひで

えところに入り込んだもんだ！

マニユエル こりゃ教会じゃないか？

ベルトラン いや、劇場だろう。

マニユエル まあ雨はしのげるさ。それに食いものだってなにかあるだ

ろう。

ベルトラン　ねずみでも食おうつてのか？　何言つてやんだ。外から、この建物を観たろ、まるつきり廃墟だ。少なくとも空き家になって二十年はたつてるな。なのに食いものだつて？　へっ！　（彼は暗がりの中を歩き回る。マニユエルのすぐ後ろをついて行く。マニユエルは懐中電灯で照らしている）おい、「ショック」もうちよつとこつちを照らせよ！　危なくひっくり返るところだった！

マニユエル　じゃあ自分で懐中電灯を持ちなよ。文句言うのはやめてくれ俺だつて……

大きな音。「ギロチン」が落ちたのだ、窓が閉まったのだ。雨の音が聞こえなくなる。

ベルトラン　何だ？

マニユエル　さあ。何か落ちたんじゃないのか？

ベルトラン　らしいな。何か落ちたんだ？

マニユエル　見てみるよ。懐中電灯持つてんだろ。

ベルトランは上手の方から、高い所に光を向けて、ゆっくり装置を照らして行く。半円を描き、それから下へ下げて行くと、そこだった。彼らも観客も、間仕切りが落ちていて、窓が完全に落ちているのに気づく。

ベルトラン　くそつたれ！　何だこれは？　窓が塞がれちゃまっている。

ベルトランはあいている方の手で、間仕切りを上げようとする。

マニユエル　動かないのか？

ベルトラン　片手がふさがつてんだよ、この野郎！　お前の懐中電灯を持ってくりやいいんだ。手ぶらで見物している場合かよ。

マニユエル　（懐中電灯をとる）じゃよこせ。いらいらするなよ。こういう時こそいらいらしちやいけないんだ。ちゃんと筋道をたてて頭を使わなきゃな。後になって後悔するぜ。もうちよつと落ちついてりや、ああも出来たこうも出来たのにつて。ほら覚えてるだろ、俺たちがニカラグアに着いたとき

だつて……

ベルトランが間仕切りをあげようと必死になっているのが、懐中電灯の明かりで見える。

ベルトラン　ぺらぺらしゃべってないで、こいつを上げる気になったらどうだ。お前、もともと機械工だったんだろ、え？　お前の仕事だ、あけてみるよ。

ベルトランが懐中電灯を持つ。マニユエルはすぐ仕事にとりかかる。あれこれやって、手を止め、合わ
せ目を調べる。

マニユエル　だけどうしたんだこりや……畜生！　ええと……こいつを……だめだな……こいつは……どうなつてんだよ！

ベルトラン　え？　お前がやっても駄目なのか？　こりややかいだな。マニユエル　変だな。おかしいぞ。おい、よこせよ！

彼はベルトランの手から懐中電灯をとって、鎖の側に近づけて調べる。

ベルトラン　え、どうしたんだ？

マニユエル　畏じゃないかな。俺たちネズミみたいに閉じ込められたんだ。

ベルトラン　馬鹿いえ！　ここは空家なんだぞ！　入口も窓も全部、外から板で打ち付けてあつたじゃないか。

彼は勇気を奮い起すために大声で口早くしゃべる。

マニユエルは鎖の行く先を懐中電灯で追って、バルコニーを見つける、やはり大声で口早くベルトランに答える。

マニユエル　空家かどうか、そんなこつちやねえんだよ。俺が言いたいのは、もつとも基本的な機械の法則からして、これは（明りを仕切りに向ける）狼か、ピューマか、間抜け野郎を捕まえる畏の役割をするってことなんだ、畏なんだよこれは！

ベルトランとマニユエルのいる場所を、二つの強力な明りが照らし出す。窓を閉ざしている仕掛けは、まさに、畏である。

エリアーヌの声 (舞台にあるいくつかの拡声器から聞こえてくる) 動くんじゃない! お前たちは監視されている!

ベルトランとマニユエルは恐怖にかられる。二人は前舞台の真中にある家具の後ろに隠れ、身を守る。

この二人の男は、裸足で、中央アメリカの農村の服装をしている。大きな麦わら帽をかぶっている。着ているものはびしょぬれだ。

マニユエル 何だこれは、え?

ベルトラン お前の言うとおりで。俺たちは罠にかかったんだよ。

マニユエル 何とかしなけりゃ。

ベルトラン だけど、何か方法はあるか?

マニユエル 掛け合いやいいじゃないか。

ベルトラン 黙っている方がいい。他の奴らが出てくるのを待とう。

マニユエル 他の奴らって?

ベルトラン お前、解らないのか?

マニユエル ……でも今んとこ、女の声一人しか聞こえなかったけどな。

ベルトラン 恐れ入ったね! お前は大した自信家だよ! 女の声聞きやすぐ安心しちまう。でもな、俺はな、この手の女にや決まって野郎どもがひつついてるとにらんでるんだ。何人いるか、どこにいるか、そりゃ解らない。だからこうやって床に伏せて、待ってるんだよ。

マニユエル でも、こつちに悪気が無いってことを伝えて方がいいんじゃないかな。

ベルトラン じゃあ、やれよ! 出てって、しゃべりやいいだろ。

マニユエル やってみつか。(たちあがり、舞台の周りを歩く、時にひや後づ去りしたり、くるっと回ったりしながら) マダム、セニョーラ、レディ……どこにいらっしやるんですか? どういうお方? お一人なのか、他にどなたかいらっしやるのか存じませんが? どうぞご心配なく。わたしたちはずもともとおとなしい人間で、何も悪いことをしようと思っていないわけじゃありません。ただちよつとだけ、慎んで、心

からあなたとお話しできればと。あの、こっちに出てきて、返事をして下さいませんか？

緊迫した一瞬。ベルトランは隠れているところから半分出かかる。と突然……「トリスタンとイゾルデ」が原語で、物凄いボリュームで部屋中に響き渡る。ベルトランは隠れ場所からでて、部屋の真ん中にいるマニユエルの所に行く。あちこち見まわしながら、何も言わず、何もしない。音楽が、はじまったと同じに突然やむ。「バルコニー」のカーテンが開き、ミセス・パーキンソン・シンプソンの姿が見える。乗馬服を着て、一種の王座にすわり、手に騎兵銃を持って二人を狙っている。

ベルトラン　こりやまた！

マニユエル　（ぶつぶつと口の中で）だからいったじゃないか、女が一人きりだって。

エリアーヌ　私はミセス・パーキンソン・シンプソン。あなた方がいるのは私の家です。あなた方は不法侵入をしました。

マニユエル　が一步前へ出る。

マニユエル　外はひどい雨なもので、セニョーラ、私たちは決して……ベルトランも一步前へ出て、マニユエルの肩にちょっと触れ、頭にかぶっている帽子をさす。ベルトランは自分の帽子をぬぎ、インディオが自分の主人と話す時にやるように、へりくだった態度で、自分の前に帽子を持つ。

ベルトラン　お許し下さい、セニョーラ、でも私たちはこの家を空家だと思っただけですから。

エリアーヌ　少なくとも字ぐらい読めるんじゃない？

ベルトラン　とマニユエルは顔を見合わせる。

ベルトラン　ええ、セニョーラ。読めますが。

エリアーヌ　だったら、そんな言い分は通りません。この家からちょうど二キロ向うの道の上に、この土地は、大英帝国によって保護されている私有地だとあなた方みたいな浮浪者に告げ

ている立派な立札がたっていたはずです。

二人の男はまた顔を見合わせる。

ベルトラン ええ、セニョーラ、確かにありました。でも申し上げますが、あんた立札、何の役にも立ちやしませんよ、字なんかかすれて読めやしないんですから。奥さまはきつとここからもう長いこと、お出になってらっしゃらないんじゃないでしょうか？ ラジオもテレビも多分お持ちじゃない。何しろ大英帝国は、この家や、立札と同じで、とつくに没落しちまったんですから！

エリアーヌは銃を構え、驚くほど慣れた手つきで弾を装填し、二発討つ。ベルトランとマニユエルは逃げ周り、叫び声をあげ、家具の後ろに隠れる。

マニユエル うへえー！

エリアーヌ 勇敢なイギリス人のいるところには、必ず我が大英帝国は存在し、これからも存在し続けるでしょう。いいこと？ 私は百歩離れてマツチ箱を射ぬくほどの腕を持っているのよ。もう一度ひどいことを言ったら、それこそ二人とも床にのびることになるのよ。

ベルトラン でも奥様、それは誤解です。大英帝国に逆らうなんてとんでもない。むしろ逆です。このイギリス領に私たちは保護を求めて逃げて来たのです。解っていただけますか？ ウイニード！ ヘルプ！ プロテクション！ ウイ ラブ イングランド イエス ウイドウ！

彼はイギリス国家を歌いはじめる。彼らは上手のはじまでさがり、ステージの脇に隠れる。

マニユエル (ベルトランにそつと) やめろよ、くそ！ 馬鹿な真似はやめろ。あの女は気狂いだ！ 逃げよう。

エリアーヌ (ベルトランの忠誠の誓いを聞いた後は少し穏やかになつて) あなた方はどなたですか？

ベルトラン (マニユエルに) ほらな、うまくいったろう！ 俺にまかせとけよ。(立ち上がり、部屋の真中へ行く) 仲間の連中は私のことを「タッチ」と呼び、こいつのことは(と、ゆっ

くり立ち上がるマニユエルを指す)「ショック」。

彼はホツとして、微笑む。間。

エリアーヌ (冷たい感じになり)あだ名ではなく、本名を言いなさい。

彼はちよつと慌てる。

ベルトラン すいません、不作法なことを言いました。私はルブランと

申します、ベルトラン・ルブランです。そしてこの男は：

：

マニユエルが進み出る。

マニユエル マニユエル・シエラです。

エリアーヌ ところで、ルブランさん、シエラさん、この中央アメリカ

でいったい何が起きたんです？ ここにそうやって侵入し

てこなければならぬのはなぜ？ 津波でも押し寄せまし

たか、それとも地震、それとも火山の爆発でも？

エリアーヌは騎兵銃を足の間において、長い葉巻に

火をつける、二人はびっくりする。

マニユエル いえ、そういうことじゃありません、セニョーラ。私たち

のいたところでクーデターがおこったものですから。

エリアーヌ それで大慌てって訳？ 私はこの国境の近くに住んでから、

軍のクーデターの話はもう百回以上聞きましたよ。

ベルトラン (マニユエルが答える前に口をはさむ)ええ、確かに、め

ずらしいことじゃありません、ただ今度のは、新しくやつ

て来た連中が前からいた連中を追い越そうとすることが

問題になってまして、権力者は今、誰かれ見境なく打ち殺

しているんです。最後に聞いた演説じゃ「反抗しないのは

死んだ奴だけだ」何て言ってるんです。それで「ショック」

と、おつと失礼、マニユエルと私は、もううんざりだ、こ

れじゃ俺たちは標的みたいなものじゃないか、逃げだそう、

どこかよそに行こう、もっと立派な人たちがいて、もっと

人間扱いしてくれるはずだ……という訳で……ここに……

ベルトランは、自分と、自分の巧みな説明に満足し

て、微笑む。間。エリアーヌは葉巻をくゆらせなが

ら、二人をみ、考え、そして、

エリアーヌ お腹が空いているんじゃないやありません？

ベルトラン そうなんです、奥様！

マニユエル そりやもう、セニョーラ！

エリアーヌ （立ち上がる）何か食べる物を持ってきましょう。それと着替え。

エリアーヌはゆっくり降りて来る。葉巻を手に、銃を脇の下にはさんで。

ベルトラン ありがとうございます。奥様。（マニユエルに大きな声で）な、だから俺が言ったろう、イギリス領へ行こう、あそこなら俺らをちゃんと扱ってくれるって。

マニユエル もしこの家に誰かが住んでいて解ってたら、俺たちはちゃんと戸をノックしたのに、なあ。

エリアーヌはまっすぐ横切って、ステージの段を上がり、カーテンの向こうに消える。マニユエルはさつさとベルトランの傍による。

ベルトラン お前調子がよすぎると……一体どこをノックするって言うんだ？ 窓も戸も全部外から板が打ち付けてあるんだぞ、この馬鹿。さあて、よし、やっとな気が落ち着いてきた、俺は閉じ込められているのが大嫌いなんだ。息が詰まっちゃう。食うだけ食ったら、さつさと退散しようや。

マニユエル どこから？

間。見まわす。

ベルトラン 入って来たところからさ。

マニユエル じゃあ、ためしにやってみろよ。

見まわす、それからベルトランは窓を開けに行く。あれこれやってみる。しかし全然開かない。

ベルトラン だめだ。どうしようもない！（間。彼らはがっかりする。そして……）待てよ！ いい考えがある。

マニユエルは窓を塞いでいる仕切りのところへ行く。滑車のついている鎖を伝わってバルコニーまで行き、上にあがって、滑車を動かしている仕掛け——レバ——を見つければ、それを動かす。

マニユエル 畜生、あのあばずれ！

ベルトランはマニユエルの所へ行く。

ベルトラン 何だそれ？

マニユエル ここであの罫を操縦してるんだ。でもレバーには錠がかかっている。あの女が鍵を持つてるに違いない、あん畜生。

ベルトランは部屋の真中に戻る。何もしていなかったような顔をする。エリアーヌのやって来る声が聞こえる。「イゾルデ」のアリアをドイツ語で歌っているのだ。マニユエルもいそいで部屋の真中に戻る。

エリアーヌが腕に着替えの衣裳掛けを二つ持って、カーテンの間に現れる。

エリアーヌ どうぞこれを。

男たちは洋服を取りに近づく。

ベルトラン どうも、奥様。

マニユエル グラシマス、グラシマス、セニョーラ。

エリアーヌはまた去る。男たちは着替えのためにひっくり返った家具の後ろに隠れ、服を脱ぐ。二人は頭だけが見えている。

ベルトラン ちよつとナフタリンくせえな。でもいいや、風に当てりやすぐ消えるだろう。

マニユエル 風に当てるだって、よくいうよ。俺の言うとおりにしてりや、今頃メキシコの入ってたのに。

ベルトラン じゃなきや溝ん中にな、弾に討ち抜かれて禿鷹のいい餌食になってたよ。まず、何か食って、少し休んで、それから のんびり国境を抜けよう。一週間後にや、ヴェラクルスだ。

マニユエル いや、まっすぎチワワに行こう、それがいいよ。言ったらう、いとこたちが待つてるって。

ベルトラン どうしてそんなに急ぐんだよ？ 後で行ったっていいじゃないか？ それに、俺だったら、土百姓がこっち来て働けたって遠慮しとくがね。お前、どんな仕事かわかっているのか？ 朝から晩まで背中曲げてよ、それでやっこさいンディオ並みの暮らししか出来ねえんだぜ。

マニユエル　じゃあ、どうしようっていうんだよ！

ベルトラン　だから言ったろ、ヴェラクルスだよ。アカプルコだよ。あそこならうまい商売がいくらでもころがってら。(笑う)「窓の鳩が飛んできたら　優しく愛をこめて　私を思い出して　おくれ　アイ　チキタ　ケシ」

マニユエル　商売だって！　あのいんちき商売のことか。マラカイボじや三ヶ月牢屋暮らし、コスタ・リカじゃ四ヶ月、ニカラグアじゃお巡りにさんざんぶつ叩かれ――。

ベルトラン　そりゃ誰だって悪い時期ってのはあるさ。でもな、それが人生つてもんだ。ある日は最高、ある日はどん底。どっちにしろうまくやった奴が勝ちよ。とにかく俺たちは今、つきが回って来てんだ。俺言ったろ、この家に入ろうって。この通り、みろ、俺たちは立派な旦那ってとこだ……

二人は一九〇〇〜一九一〇の優雅な服装で、かげから出て来る。マニユエルの服はちよつと長くて大きい、ベルトランの服はむしろきつそうだ。二人はお互い相手を見る。

マニユエル　へえ……あんた……

ベルトラン　おい、いかすじゃないか！

彼はまるでモデルのようにくるりと回る。

マニユエル　ねえ、これちよつと古臭くない？　こんなぶつそうな時に、これじゃ目立ち過ぎる。こりやまずいよ。

ベルトラン　(がっかりして) そうだな、ちよつと現実離れしてるな。しかし豪勢なもんだな、こりよ。

マニユエル　もつと普通の服があるはずなのによ。おい「タッチ」、こりや気をつけた方がいいぞ。とにかく旅の費用ぐらいかせいどいてここから逃げ出さなきゃ。

ベルトラン　(カーテンの後ろに隠れている鎖を見つけて) 心配するな。俺がちゃんと気をつけてるよ。こんな窒息しそうなあばら屋で長ながつ尻ちりきめ込むつもりはないからな。

ベルトランはぐるりとまわりを見まわす。マニユエルも。彼らはこの客間をしめている雰囲気を押され、

用心深く、息が詰まったようになる。

マニユエル 墓場だな。博物館だ。あの女はよくこんなところで暮らして……

ドアがなる。ステージのカーテンが開く。

エリアーヌ ジエントルマン、
テイイズサーヴド
みなさん、お茶ですよ。

ステージの上に、小さなテーブル、椅子が三脚、高い時計、花瓶の乗っている台、造花。遠くから歌、テノールの「ピカディーのバラ」だ。エリアーヌ、お茶を注ぐ。小さなテーブルの上には、お茶の他にクッキーが盛られているお皿、ウイスキーの瓶、氷入れ、それにコップが三つ。ベルトランとマニユエルは、びっくりしてステージにあがる。

ベルトラン こりやまた……

マニユエル へえ……

二人はお菓子の皿に目を奪われる。

エリアーヌ お二人とも、どうぞおかけ下さい。

ベルトランとマニユエルは座るが戸惑ったように微笑む。二人は手が出せない。エリアーヌがゆったりとした身ぶりで進める……二人の男は同時に食べ物に飛びつく。お菓子をみるみる平らげていく。口もきかずに次々と詰め込み、時々エリアーヌに笑いかける。

エリアーヌ お茶と一緒にウイスキーを一口いかが？

二人は肯定の身ぶり。

エリアーヌ 氷は、いれますか？

ベルトランは頷き、マニユエルはいらないという身振り。

エリアーヌ じゃ、オンザロックをルブランさんに、シエラさんにはストレートね！

エリアーヌはそれぞれに少し注ぎ、自分にも大きなコップに半分ほど注ぐ。

エリアーヌ お茶と一緒にウイスキーを飲むというのは、最初の夫の死

んだパーキンソンからうけついで習慣なんです。ケニー
ス・W・パーキンソン大佐、イギリス軍の将校でした。あ
の人は若い頃、ビルマ、ベナレス、マドラス、ずっと東南
アジアですごしたわ、でも、一度も病気にかかったことが
ありませんでした。いいスコッチというのはバイ菌を殺す
のね。よく私にこう言いましたよ。「エリアーヌ、私は世界
中で一番貧しい、一番汚い所で三十年も暮らして来た。バ
イ菌がうようよしているガンジス河の水だって飲んだこと
が……決して病気にならなかった。赤痢、おうねっびょう黄熱病、マラリ
ヤ……、恐いものなしだ。エリアーヌ、どこにいてもお茶
と一緒に必ずウイスキーを一口やるだけだ。胃腸を洗い、
血をきれいにしてくれるからね（半分になったグラスを高
く挙げて）ケネス・W／パーキンソン、どこにいらつしや
ろうとあなたに乾杯！

ベルトランとマニユエルもそれぞれグラスを高く挙
げる。

ベルトラン 乾杯、大佐殿！

マニユエル 乾杯！

彼らは飲む。エリアーヌは前と同じようにたつぷり
注ぐ。それから椅子の背にかけてあった白い布製の
手さげから葉巻のパイプを出す。葉巻に火をつけ、
火のついた光を眺め、物思いにふけりながら一服吸
う。

エリアーヌ 人生か、まったくね！（悲しい思いを追い払うような身
振りをする）葉巻を吸うのは、二度目の夫の死んだウイリ
アム・F・シン普森から受けついで習慣なのよ。よく私
にこう言いました、「エリアーヌ、葉巻は神様からのプレゼ
ントだよ。つらい時に私たちを慰め、生きる力を与えてく
れる。この世の毒気を肺から追っ払ってくれる素晴らしい
プレゼントだ」。煙草は、夢の葉っぱ。シン普森はこの南
半球で若い時代をイギリスの栄光と繁栄のために働いて過
ごしたんです。天才的な商人でした。生まれながらの商売

人ね。この家を建てたのもシンプソンなんですよ。「エリアーヌ、太平洋とカプリ海には生まれたこの帯状の土地にはね、大英帝国の旗が、我らがイギリス民族の気高さを鼓舞するようひるがえっているんだ」ってあの人は言ったの。

(エリアーヌ、少しづつお酒を飲む。突然、笑う) パーキンソンとシンプソンはどこも似ていなかったけれど、二つだけ共通点があった。土着民、混血、私生児をひどく嫌っていたこと、もう一つは私への愛情ね。あの夫たちときたら！ 何て言う男たちだろ！ パーキンソンと結婚した時、私は二十歳はたちで、あの人は六十。そして十年後にシンプソンと再婚した時、あの人はちょうど六十五でした。二人とも楡にれや榿かしの木ようにたくましくて。ああいう男たちは今はもういないわ。世の中が変わってしまったんですもの。前よりすっかり悪くなった。伝統は滅びて男たちは特徴つてものがなくなってしまったのよ。今はもう弱い男ばかり。

(ベルトランの苦々しい顔) ウイリアムがこう言ったのは本当でした。「ここはお前の家だよエリアーヌ、イギリス領だ、野蛮人に回りを囲まれているが、どんな攻撃からも大英帝国の旗が守ってくれる。もし世の中がひどく悪くなつて、きびしい時がやって来ても、この城に閉じこもっていれば安全だ。そのうち嵐も過ぎる。ここにいれば怖いものはないさ」(一瞬物思いにふける。ベルトランとマニユエルは食べ終わった。彼らは満足し、お皿は空になった) ウイリアム・F・シンプソン、どこにいらつしやろうとあなたに乾杯！

ベルトラン

乾杯！

マニユエルは何も言わずグラスをあげる。彼はまだ今の土着民の話にこだわっているのだ。彼は仕返しをしようと決め、そのために、傲慢な気持ちになっている。

マニユエル

セニョーラ、葉巻を一本いただけませんか？

緊迫した一瞬、ベルトランはマニユエルにおとなし

くしているように合図を送る。エリアーヌは、きびしい探るような目でマニユエルを見る。しかし奇妙に張りついた顔になり次いで緩み、微笑む。

エリアーヌ　もちろんですとも、失礼。男の方たちも葉巻が好きだつてこと、忘れてました。

エリアーヌは葉巻の箱を差し出す。ベルトランはすぐ一本取るが、マニユエルはあれこれ選んでやっど一本取り、通ぶつて耳にはさみ、エリアーヌがテーブルに置いた小さなハサミで穴をあけ、口にくわえ、エリアーヌが火をつけて来るのを待つ。ベルトランの硬い表情。しかし彼女は見事に女らしい微笑みと魅力を見せて、マニユエルの葉巻に火をつける。エリアーヌはウイスキーをまた注ぐ。三人とも片手に葉巻、もう一方の手にグラス。

エリアーヌ　あなたはこの辺りのお方なの、ミスター・シエラ？　ホンデュラスですか？　それともニカラグア？

マニユエル　ガテマラです。混血なんですよ。セニョーラ。ミスター・シンプソンはこの家でこうやってテーブルについている私の姿なんかきつと見たくないでしょうね。

相手を見る。

エリアーヌ　（非常におだやかに、非常にはつきりと）シンプソンはもう亡くなりました。それに私は、夫といろいろな点で気が合っていました。土着民嫌いだけは別でした。どちらの夫にもこう言ったものです、「ケネス……ビル……それは間違っているわよ。茶色い肌のあの人たちは、やさしくて、気が良くてとっても人なつこいわ。もし私たちが良いお手本を示してやれば、直ぐそれを学ぶでしょう。ちゃんとした信仰の道をしめせば、野蛮な神を信じるのなんかやめるでしょう。それは確かよ、間違いないわ。インディオも黒人もずっと良くなって、礼儀正しく、信心深くなるわ。確かにちよつと不潔だけそ、お茶とウイスキーと葉巻があれば大丈夫」。乾杯！

エリアーヌはお酒を飲み干し、またつぐ、ベルトラ
ンとマニユエルは顔を見つめ合う。

ベルトラ
立ち入ったことをおたずねして何ですが、セニョーラ、い
つからここにこもってらっしゃるんですか……

エリアーヌは漠然とした身ぶりをする。

エリアーヌ もうだいぶ前ね、だいぶ前からだわ、ええ。

エリアーヌは頼りなげに視線を浮かし葉巻をふかす。

二人の男はまたお互いにチラッと見る。

マニユエル じゃあこう言う物は、どこから手に入れるんですか？

エリアーヌ 出入りの商人が持ってくるのよ。ハーリントン・デキスタ

ー商会と言ってるね。もう五十年前からここにあるの。正
直なイギリス商人よ。確かに欠点もありますけど、古いア
ングロサクソンの血をひく本当のイギリス人と言うのは、
同じ国の人間の個性や特徴をとつてもだいにしますから
ね。先代のアグナス・ハーリントン・デキスターはもう死
にましたけどね、息子さんのジミーが、ずっとここにいろ
いろ届けてくれます。あなたの方に入って来たあの穴の口に
箱を抱えてやってくるのよ。時々一言二言おしゃべりする
こともあるわ「ジと、ミー、同暮らしは？」「酷い時代です
よ、ミセス・シンプソン、酷い時代です」父親からちゃん
と私の好みを聞いてしっているのね、いつも決まったウー
スキーと、上等な葉巻と、クラッカーと……そんなものを
みんな届けてくれるんです。

マニユエルは質問をする前に、一口ウイスキーを飲
む。

マニユエル で……お金は？

エリアーヌ ええ、シンプソンって言う人は先を読める人でね、ちゃん
と手を売っておいてくれましたわ。私が死ぬまで使える当
座預金が銀行に組んであるんです。だからここのは死んだ
夫たちが贈ってくれた宝石があるだけで、お金は一銭もな
いんですよ。お金というには、小銭にしても、紙幣にして
も、ぜんぜん私、見たことがないの。小切手のはにに数字

を書き込んで、ミセス・パーキンソン・シンプソンとサインをすれば、それで終わり、私の名前がつまりお金と言う訳。

沈黙。ベルトランは自分の葉巻を灰皿で丹念にもみ消す。

ベルトラン ミセス・パーキンソン・シンプソン……

エリアーヌ エリアーヌ。

ベルトラン え？

エリアーヌ 呼んで呼んで下すっていいのよ。あなたのことはガルリエルって呼びます。私、ベルトランっていう名前は嫌いな。でもマニユエルって名前は好きだわ。(その響きを味わう様に眼をつぶって) マニユエル……(子供の遊びのようにそれぞれを指して) エリアーヌ……ガブリエル……マニユエル……いいわね？

二人の男はどまどつたように笑う。

ベルトラン 結構です。で、エリアーヌ、マニユエルと私は、あなたのおもてなしに心から感謝し、こうしてお会いできてとても幸せだったと思っていますが……実は私たち、他に用事がありました。

短い間。

エリアーヌ どういうことでしょうか？

ベルトラン ええつまり……仕事が。マニユエルのいとこがわざわざそう言ってくれますし。ヴェラクルスでもちよっと取引が。せっかくおもてなしを受けて無作法なこととはしたくないのですが、でも……(マニユエルの沈黙とエリアーヌの態度に口ごもって、微笑し)……そろそろおいとましなければ。

短い間。

エリアーヌ マニユエル……あなたもやはり急いでいるの？

間。二人の男は顔を見合わせる。

マニユエル まあ私の方は別に。そんなに急いでいる訳じゃありません。マニユエルは酒を飲む。エリアーヌが自分のコップにつぐ。ベルトランは爆笑する。

ベルトラン 何ですって？ ここに来る途中だつて尻に火がついたみたいにわいわいせきたてていたのはお前じゃないか。のべつ幕なしに、早く、早く、急げ、急げって。

マニユエル さっきまではそうだったさ。ガブリエル。でも今はほら、状況が違ってきたろ。

ベルトラン 状況が違って来た？ へえ！ このご婦人に鍵かけられてギヤーギヤーわめいていたのはどこのどいつなんだ？

ベルトランは怒り狂って立ち上がる。

マニユエル ベルトラン！（エリアーヌを見てちよつと笑い）あ、どうも。（ベルトランに）ガブリエル、外はどしゃ降りだぜ。何で急ぐことあるんだ、ウイスキーはあるし、音楽は鳴っているし、素敵なタバコはあるし、素晴らしいご婦人がそばでもてなして下さるっていうのに？ 冬が近づく前にせいでい果物を味わったり、花に香りを楽しもうじゃないか。

エリアーヌとマニユエルは微笑をかわす。

ベルトラン もう俺たちはたらふく食ったぜ、胃袋はずっしり菓子がつまつてら。それにな、俺は密室恐怖症なんだ、畜生！ もう一分たりとこんなところに閉じ込められているのは嫌なんだ。逃げ出すよ、俺は。退散する、出てくよ、雨だろうとなんだらうとかまうもんか！（やつと自分をおさえ、毅然として）セニョーラ、鍵を。

緊迫。ぶつかる視線。

エリアーヌ え？

ベルトラン 何のことかよく分かっていらつしやるはずだ。キーですよ。あの仕掛けを開ける鍵を下さい。

エリアーヌ 何ておっしゃったの？

ベルトラン へっ、知らばつくれるない。

マニユエル ここはこの方の家なんだぜ。好きなようにするのは当然だよ。

ベルトラン 俺たちをねずみ捕りのねずみみたいに閉じ込めるのも、当然手言うのか？

マニユエル そうさ。俺たちはこの家に押し入った不屈者だ。緒周りが

やって来るまで俺たちを閉じ込めとおこうと思っただけで文句はいえないよ。

ベルトランはまた怒りにかられる。

ベルトラン
お前気でも違ったのか、でなきやウイスキーが頭にきたのかよ。いいよ、わかったよ、残りたきやのこれ。俺はずらかるぜ、さっさと。あの仕掛けは何とかすりゃあけられるだろう。(彼は急いで下に降り、罨の所に行つて継ぎ目を開けようとするが、開かない。いらいらして、部屋の隅に火かき棒を見つけ、それを使ってこじあげようとするが、駄目だ。ますますいらいらし、足やこぶしで罨の羽目板を叩く)畜生、売女……この淫売……(その間、エリアーヌとマニユエルは煙草をふかしたり、お酒を飲んだりしながら、劇場の栈敷からでも眺めているようにベルトランを見ている。しばらくしてエリアーヌは手提げから拳銃を取り出し、煙草をくわえたまま、右手で拳銃を持ち、左手をそえ、完全な射撃に大勢でベルトランのいる場所を狙う。マニユエルはその間の飲みかつ吸う。エリアーヌは一発目を撃つ。ベルトランは叫び、恐怖にかられ、下手のはじめのバルコニーの下に隠れようと走って行く。エリアーヌは二発目を撃つ。ベルトランはバルコニーにあがる階段の方に走る。三発目の弾。ベルトランは全速力で走りまわり、高いところへ逃れ、バルコニーのところに、必死になって隠れる。そこから叫ぶ)おいマニユエル、頼むから何とかしてくれ!あの気違いをとめてくれ。弾がだんだん近づいて来るんだ。マニユエルはエリアーヌの手首をおさえ、精一杯魅力的にほほ笑む。

マニユエル
エリアーヌ……お願いですから……

エリアーヌは彼に微笑み、拳銃の銃身をふつと吹いて、しまう。

エリアーヌ
いいわよ。

マニユエルは立ち上がる。

マニユエル
おしっこはこっちですか? (紅茶をさして)これを飲む

といつもどうも……

エリアーヌ 廊下を行って、階段をのぼると、右手にまた廊下があるわ。その突き当りがそうよ。

マニユエルはバルコニーを指して、そつと言う。

マニユエル 奴に話しかけてやって下さいよ。おとなしくなるでしょう。いい奴なんですよ。ただ怒るとどうにも手がつけられなくなっただけ。

マニユエルは微笑し、去る。エリアーヌはしばらく考えているが、手提げから小さなコンパクトを出して、鏡を見、唇に口紅をちよつと塗り、白粉をはたく。それから立ち上がって、階段を降りる。手提げを持っていく。部屋の真ん中に立ち、ひっくり返った家具によりかかる。

エリアーヌ 大丈夫よ、出て来ても、ガブリエル。もう撃つたりしないわ。

ベルトランがゆっくり首を出す。

ベルトラン これもやっぱりあなたの夫がら受けついで習慣なんですか？ え。

エリアーヌ パーキンソンからね。射撃にかけては腕ききで、ベンガルでは虎狩りの名手だったの。

ベルトランは立ち上がり、自分の着ている服を見る。
埃を払う。

ベルトラン ほら、あなたの気まぐれのおかげで、洋服を汚しちゃいました。

エリアーヌ 心配することはないわ。まだ他にあるわよ。その服シン普森がオスカー・ワイルドの「真面目が大事」をやった時使ったの。あの頃、私は芝居に夢中でね。でも、あなたシン普森によく似てるわ。あなた何処から来たの、ガブリエル？

ベルトラン キャンベールです。いいところですよ。土着民と黒人がいて、タムタム、ムームー！ ……オエエエ……

ターザンの太鼓と叫び声を真似る。

エリアーヌ ブラボー、素敵ね。あなただったらワイルドでもジロドゥーでも全部やれるわよ。

ベルトラン もちろん。飛行士だろうが、潜水艦の艦長だろうが、何でもばっちりやっちゃいますよ。

ベルトランは下に降りて来る。

エリアーヌ そりやそうよ。男だって女だって、断固とした性質と鉄の意志さえ持っていれば。人間、何でも出来るものだわ。

ベルトラン とんでもない。そんなの言葉だけの綺麗ごとき。たったこれっぽっちのことをやるんだって（親指と人差し指で間を作って）まず、金がいるんだ。生まれがいやしいから、それこそかたわに生まれたようなもんで、一生ハンデキャップをしょっちゃうんだ。

二人は部屋の真中で、引っ繰り返った家具に囲まれている。廃墟の中の、世界中でたった二人の生存者のように。

エリアーヌ じゃあ、アブラハム・リンカーンやエジソンやヘンリー・フォードなんかどう思う？ みんな質素な家の生まれよ。

ベルトラン でも、それはちよつと違う。何しろヤンキーってのは尻にドルを印刷して生まれて来るんだからな。（額を叩いて）我々フランス人ってのはそうじゃない。料理とか芸術とか、生きる幸せを信じて生まれて来るんだ。

エリアーヌはベルトランに一步近づいて、その肩に手を置く。

エリアーヌ ガブリエル、私たちお互いにもっと分り会っていいんじゃない。没落した二つの国の生き残りの二人ですもの……落ちぶれて二つの帝国……私たちの白い皮膚はもう古くて、いろいろなものを見てきたし、いろいろなものを手に入れたきたけれど、いろいろなものを失って来たわ、そしてただただ無駄に持ち続けているの。それなのにあんたはどうしてそんなに急ぐの？ どうしてここから出て行こうとするの？ またひどい目に会いに？ この壁は本物の要塞なのよ。そのうち解るけど、ここにいればあなたの毎日はず

んだんおだやかになるわ。ここにいなさい、ガブリエル。
ベルトランは相手に魅せられた様にじつと見ている。
エリアーヌの声と眼に催眠術を掛けられた様になっ
ているのだ。そして、口を開こうとした時……靴の
音、誰かがステージの脇から近づいてきたので、そ
っちを見る。

ベルトラン あれ、誰ですかあれは？

SSの服装を着た男が後ろ向きに入って来たのだ。
ステージのはじめの所で、二人に背中を向けて止まる。
エリアーヌが振り向き、それを見て、叫び声をあげ
る。

エリアーヌ ハンス、ハンス！

遠くから、ほとんど聞き取れないくらい小さく、「リ
リ・マルレーン」の旧ナチ国防軍のコーラスが聞こ
えて来る。男はゆっくりと振り返る。踵をかちんと
鳴らし、革のバンドに片手を置き、片手をナチの様
にあげて挨拶。マニユエルである。

ベルトラン 何だ！ お前か。(間。逮捕のイメージ)

マニユエル 通りがかりに衣裳部屋でこの制服を見たもんでね、どうし
ても着たくなっちゃって、(階段を降りて来る) ハンスって
誰なんです。

エリアーヌ ある晩やってきたの。雨の季節に。あなたがたのように。
病気で、ケガをした。地獄から帰って来た男。あの人は
ヨーロッパを、南アメリカをあちこち走りまわったのよ。
追われ、狩り立てられ、いつも命をおびやかされていた。
でも、あの人は何処に行ってもこの制服だけは手放さな
かったの。監獄か死にあたいするって言うのに。アドルフ・
ヒットラー直属のSSよ。ほら！ (マニユエルに近づき)
ここに、弾の跡が！

弾丸の跡のあるマニユエルの左の腕をなでる。

マニユエル ハンスは今どこに？

エリアーヌ 死にました。ドイツで。帰国して何か月も立たずに。あの

人は上官たちがまだ生きていると信じて、南アメリカ中を走り回って探していました。ときどき高熱に犯されながら叫ぶんです。「死ぬはずはない、あれほどの男たちが死ぬはずはない。スイープ・デイトリツヒ、マーチン・ポーマン、ハインリツヒ・ヒトラー！　俺は、ハンス・シルドクラフトは、ここにいるぞ！」ある日、あの人はこう言ったわ。「ドイツに帰らなきゃ、エリアーヌ」「駄目よ、ハンス、いっちゃ駄目、ハンス！」でもあの人は行ってしまった。たった一つの財産、制服を私に残して。「もうこれはいらないよ、エリアーヌ。ドイツは死んだんだ、もう一つのドイツが灰の中から蘇るだろう。今度こそ、勝利は我々のものだ。僕は新しい制服を着るよ。これはあなたが持っていてくれ、英雄たちの記念として、僕の記念として。ハイル！」そしてあの人はフランクフルトに発っていったわ。三ヶ月後に短い通知が来たわ、死亡通知。サインも無し、住所も無し、きつと昔の仲間の誰かが送ってよこしたんでしよう！　……ハンス、ハンス……（制服をゆっくりなぜながら話す。最後にはマニユエルのそばにぴったりくっついて）あの人の死を聞くと、私は戸口も窓も全部閉め、この手ですっかり釘づけにしました。ハンス！　……ああ、ハンス！

エリアーヌはしばらくマニユエルのそばにいるが、まるでハンスを見ているように彼を見て、離れる。

走って、ステージの階段をのぼり、顔を隠しながら去る。間。

ベルトラン どう言うことだ？

マニユエル 何が？

ベルトラン 何故お前が急に態度を変えたのか聞かせてもらいたいね？
ここからはさっさと逃げ出すはずだったろ、え？

マニユエル お前、話聞いてなかったのか？

ベルトラン 聞いてたさもちろん。こうだろ、ハンスが死んで、戸を閉め、窓に板を打ちつけた、まさに墓場だよ。そしてあの女に逆らえばバンバンだ。俺は今夜こんなところには寝ない

からな。

ベルトランはいらいらとあちこち歩く。

マニユエル　じゃあの金は？　どこかに隠してある宝石は、小切手。数字とサインを書き込むだけ。エリアーヌ・パーキンソン・シンプソンはいつたい俺たちにくらくくれるんだろう？　二十ドルかな？　二百ドルかな？　それとも二千？　ヴェラクルスや王侯の暮らしが出来るぜ。あのに、あんたの閉所恐怖症といらいらのために、それを全部窓から捨てようっていうのか？

マニユエルはベルトランの周りを回る、SSの制服を着ているのでまるで別人のように感じ。エリアーヌの声が遠くから聞こえ、近づいて来る。

エリアーヌ　ねえ！　マニユアル！　ガブリエル！　こんや何をしたらしいか分ったわ。パーティーよ！　（エリアーヌが現れる。

ドレスの上の上っぱりをかけ、頭にネツカチーフをして、胸にはうきなどの清掃道具をかかえている）シンプソンが生きていた頃のような素晴らしいパーティーをやるのよ。音楽を鳴らし！　陽気に！　楽しく！　素敵なパーティーを！　さあ、ボヤーっと突っ立ってないで。ねえ、こうやって世間から離れ、閉じこもって暮らしている利点って何か知ってる？　それはな、時を飛び越えることが出来ること。さあ、ガブリエル、これを持ってちょうだい……これも……そう、これも……（さっさと被いをはがし、ベルトランに渡す。マニユエルは掃除の間にそっと去る。ベルトランも被いを持って去る）今日はいつたいどんな天気なのかしら？　ぜんぜん分らないわ。時々台風があちこち吹き荒れるのは分る。今夜みたいにどしゃ降りの雨が降るから。そう、はつきり分らないけど、何となく分る。だって戸口も窓も全部閉まっているでしょう。家の屋根は大丈夫よ。どんな風が吹いたって！　どんなにあめがどしゃ降りだって！　そう！　エリアーヌ・パーキンソン・シンプソンは時を飛び越える！　（彼女は楽しそうに動き回り、とぎれ

とぎれに歌を口ずさむ）外がどんな天気なのか、時がどれだけたったのか、昨日がいつで、明日がいつなのか、私は何も知らない。エリアーヌがボンベイにケネス・パーキンソンと着くのも今日、美しさを知らせるのも、愛を知るのも、自分の……（ちよつとふざけた様に笑う、彼女は決してユーモアのセンスをなくさない）……魂を知るのも今日。ベリーズ、シンプソン、ハンス、全部今日。私は時計を止め、季節を止め、歴史を止める。時を制服するの！（被いを全部取り、家具をちゃんと元の場所に置く。手にはたきを持って、まわりを見まわす）この勝利はまさに祝うべきよ。大英帝国はそりや亡びるでしょう、でもエリアーヌ・パーキンソン・シンプソンはいつもここにいる。分った？（まるで待っているかのように聞く。スイッチを押して、プロジェクターの位置をかる。ともかう、一瞬の薄暗がり。「ラモーナ」の最初のところが聞こえる。マニユエルはトベルトランが席に着く。明かり）あらまあ！　こんな恰好で！（エリアーヌは走り去る）

第二幕

テノールの歌手がスペイン語で歌っている「ラモーナ」（泥レス・デル・リオの映画の題名）が、長い間聞こえている。幕が開く、あるいは舞台が明るくなる。被いは全部はずされている。下手のバルコニーのしたに小さなテーブル、上にRCAビクターの古い蓄音器が乗っている。下手中央寄りに、小さなソファ、細くて高い背のついた椅子が二つ、細長いテーブルが一つ。奥の上手の隅のステージのそばに、テーブルビュッフェのはじが見えている。登場人物はそこに自分で食事を取りに行くのが、観客にはテーブルの一端しかみえない。

マニユエルとベルトランはこちこちになつて椅子に座っている。ベルトランは夏のスモーキングに白のチョッキを着、マニユエルはちよつと長めの燕尾服を着ている。髪の毛にポマード。二人の男たちはまるでウインドーに飾られたマネキンみたいだ。観客に対してしばらく凝固したような感じ。そして――

マニユエル　なんだかお互いへんてこな格好だな。

ベルトラン　そんなことはないよ。お前は嫁さん待つてるお嬢さんてとこだな。おい、いつかみたアメリカ映画の俳優みたいだ、フレッドなんとかって……

マニユエルは立ち上がり、ベルトランの後ろに回り、座っている椅子の背を両手で掴む。

マニユエル　あんたは、あんたにぴったり、まるで腸詰だ。俺たちがここに居ることのはなにも人形芝居をやるためじゃない、何処にあの女が宝石を隠しているか、小切手にゼロを幾つ並べるか、それを知りたいからだ。そうだろ？

ベルトラン　俺だってそれしか考えちゃいないさ。おい、ベルトラン・ルブラン、通称「タッチ」またの名ガブリエル、ついにチャンスがやって来たぞ、運が向いて来たぞ。金だ、銭だ、お宝だよ。お前の一生の願いが……もうそこに……手の届くところに。考えるついでいやあそればっかりだ。けどな、今のこの瞬間をたっぷり味わったって、いいじゃないか。死んだシンプソンのスモーキング、トルコ煙草、カクテル「マンハッタン」、立ち食いパーティときた。俺はもう避暑地のアカプルコの海に面した豪華なホテルに居るようなもんだ。ウエイトレスがおっぱいまるだしでよ、「セニョール、何をお持ちしましょうか……？　ご注文は……」とかなんとか……

レコードが終わり、マニユエルが止めに行く。

マニユエル　だけど本当に夢を実現したかったら、時には手を汚さなければいけないんだ。俺はあんたって人をよく知ってるけど、あんたはいつだって計画だけだ。単なるおしゃべりさ。い

ざ実行となるとまた別だ……（彼がレコードをはずし、手に持って、振り返ってベルトランを見る）つまり、あなたの唯一の欠点は、お人よし過ぎるってことなんだ。

この言葉を彼はぜんぜん非難がましく、まるで客観的な事実の様に言う。ベルトランも同じ調子で言い返す。

ベルトラン
そいじゃあお前は浮気者の悪党だ、確かに女にはもてるがね。

二人は最後に微笑む。マニユエルがレコードの裏面をかけに行こうとすると、しまっていたカーテンが開いて、四〇年頃の夜会服を着たエリアーヌが現れる。マニユエルはレコードを机に置いて、手を叩く。ベルトランも手を叩く。ベルトランは立ち上がり、手に接吻する。マニユエルも近づいて手に接吻。

マニユエル
あなたはまったく……まったく……

言葉が見つからない。

ベルトラン
ビューティフル、素晴らしい。

エリアーヌは二人に座るように合図をし、ソファに掛ける。男たちは元の椅子。

エリアーヌ
ありがとう、ほんとに。昔にあの素敵だった時代にこの家がどんなだったか想像できます。ウイリアムと私はお客を大勢呼んで素晴らしく豪華なパーティを開いたものよ。いたるところからみんな駆けつけて来たわ、メキシコ、フロリダ、ジャマイカ、ハバナ。ウイリアムとエリアーヌ、エリアーヌとウイリアム、二人の名前はわくわくするような、どんちゃんパーティの代名詞になったほど。（短い間。テーブルの上の箱から煙草を取り、パイプにつめる）あれは戦争中の事だったわ。ある明け方、乱痴気騒ぎの後で、妙に気がとがめて、夫にこう言ったことがあるの、「ビル、もう少し私たち控え目に暮した方がいいんじゃないかしら。でなけりやせめてもう少しそっと楽しむようにした方が。イギリスは戦争をしてるのよ。戦争中なのよ。ロンドンが爆撃されているっていうのに」。そしたらあの人何て答えたと

思う？（ベルトランは煙草に火をつけようとしてみをか
がめ、分らないという身振りをする。エリアーヌは重々し
い口調で）「まさにその通り。だから奴らが爆弾を落とせば
落とすほど、我々は勇氣と忍耐を示さなければならぬ。
この家は本国を遠く離れてそびえる大英帝国の要塞なんだ。
断固として勝利を信じ、露ほども疑わず、すでに勝利を祝
つてゐるってことを見せつけるのが、我々の戦争なんだ。現
地の奴らや、我々を見張っている敵どもやあちこちに居る
友達に、我々がすでに勝利者として振る舞っているのを大
いに見せつけてやろうじゃないか。（彼女は大声で笑い、い
きなり笑い止む）それが戦争の一番つらい時期だったのよ、
四一年から四二年にかけての冬。なのにビルは勝利につい
て話していたのよ！あの人はほんとに先見の明があつた
わ！

この長いセリフの最後の方で、ベルトランはテーブ
ルの上にあるシェーカーをとって、三つのグラスに
注ぐ。ベルトランはグラスを高くあげる。

ベルトラン 乾杯！

三人は飲む。

マニユエル 乾杯。

エリアーヌ イギリスが勝った時、そりやもう、私たち、大いに祝った
わよ、何週間も……何カ月も……もうこれ以上考えられな
いってほど盛大に祝ったわよ。……仮面舞踏会でしょ、カ
ーニバルでしょ、お芝居ごっこでしょ。……そして少しず
つ正常な生活が戻って来たわ。商売上の取引がシンプソン
の生活の中でだんだん重要な位置をしめてきたの……中近
東、アフリカ、アジア……

マニユエル そしてハンスがやってきた。

間。

エリアーヌ ハンスはやって来た。（間。そして彼女はきつと立ち上がる）
でも過去はさようなら。思い出話はそこまで、せつかくこ
うやって会えたんじゃない。（蓄音器のところへ行く）ガブ

リエル、何か軽い食べ物とシャンペンを持って来て下さる？

エリアーヌはレコードを選んでいる。ベルトランは食べ物を頼まれたので、生き生きと、ビュツフェの方に行く。

マニユエルはエリアーヌの長いセリフの間ずっと煙草を吸っている。

ベルトラン 私は食事を作ったり出したりするのが本当は専門なんですよ。一つ打ち明け話をしますがね、前はカフェのボーイをやっていたんです。マルセーユの目抜き通りでね。

エリアーヌはレコードをかける。「煙がめにしみる」である。例えばマントバーニのような甘たるい編曲。ヴァイオリンが鳴り響く。エリアーヌはレコードをはしばらくそこで聞いていて、やがて部屋の中央に戻って来る。

エリアーヌ (マニユエルに) 踊って頂けませんこと、セニョール？
マニユエル マニユエルは立ち上がる。

マニユエル 申し訳ありませんが、奥様、こういうのは踊れないんです。
間。相手を見る。

エリアーヌ じゃあどんなのなら踊れるんです。セニョール？
マニユエル ベラクルスのボレロ……ここらの現地人が踊ってる奴なら何でも。

彼はとても穏やかに話す。半分皮肉な彼の態度がエリアーヌに気に入るだろうと彼には分っている。

エリアーヌ つまりヤンキー ゴー ホーム。それが、あなたのレパトリーね。でもお気の毒さま、(相手の手を取る)今夜私は「煙が目にしみる」を踊るのよ。

ベルトランがお盆を持って戻って来る。

ベルトラン あの戦争の奇妙な時代に、私はまだほんのガキでね、二十歳はたちだった。(ベルトランは部屋を横切り、すわって、飲み物を注ぐ) 考えてみりゃ、あなたやあなたの仲間が、地球のこっち側でたらふく食っている時、俺は料理場で何かくすね

ちや占領地区にいる家族に送っていた。それだけじゃない、中身も知らずに送った小包もある。そつちは仲間に頼まれてやったんだがね、ちよつとした密輸だね。マルセーユじやざらだったしな。時々俺の巢にかくまってやった奴ら、けっこう感じのいい連中だった。それがある日、俺がこっそり品物まわした奴が走り込んで来て、「おい、タッチ、すぐずらかるんだ。ゲシュタポがお前を探しているぞ」っていうんだ。

エリアーヌ この曲はね、ハンスが大好きだったの。

ベルトラン その時はじめて俺はレジスタンスの組織にばっちりかんで

たんだってことが分った。俺はあつという間に仲間に、マラカイボ行きの船に乗せられた。

マニユエル 宝石はぜんぜんつけないんですか？

エリアーヌ つけるわよ、時々、特別なことがある時なんかには。

マニユエル ルビーとか、真珠とか、ダイヤモンドとか？

エリアーヌ ええ、特にエメラルド、ハンスがとても好きだった。

ベルトラン だから、制服を着たマニユエルを見た時は、もうかーとしちゃつて。ほら、奴らが来た！二十年もたつて、俺を捕まえに来たんだぞ。すぐマニユエルだつて気がついたつていいのに！ それにくそつ、戦争はもう終わったんだ、ドイツ野郎はもう仲間じゃないか！俺は船賃を払うために船じゃ水夫やつたし、マラカイボじゃペンキ屋やつて、カラスじゃメツセンジャーボーイだ。あの頃は食いぶちを稼ぐためだつたら、それこそなんでもやつたよ。

マニユエル 時々夢をみるんですがね。いつも同じ夢なんだ。繰り返し繰り返し同じ夢を。変でしょう。

ベルトラン 潜水夫、犬の調教師、そうそう……ゴム園じゃ日雇いまでやった。ジャングル、あの湿気。おそろしい蜘蛛や毒蛇。あんまり何でも引き受けるんで、しまいには、酔っ払いの現場監督の奴、俺を黒人だとおもつてやがった。

エリアーヌ その夢って、どういうの？

マニユエル 聖処女のような女の人が、あなたのようにブロンドの髪で、

豪華なドレス、雲にかこまれて、空に浮かんでいるんです。長いブルーのケープに全身包まれ、宝石と星をちりばめて、まわりをきらきら照らしている。聖処女、幻想、そんな夢なんだ。

ベルトラン　もう俺は死にそうだった。それでそこを逃げ出し、こう思ったね、「おっさんよ、いくら働いたって、へとへとになるだけだ、金持ちを儲けさせるだけだ」ってね……

エリアーヌ　その女の人は誰なの？

マニユエル　さあ、わかりません。

ベルトラン　……「おい、お前の一生は一回こっきりなんだぞ。だからそんなことをしてないで、ちよつとまわりを見てろよ。腰を痛めずに生きる方法だってできるはずだ」。運命は不思議だね。ちょうどその頃、この「ショック」ってあだ名のマニユエル・シエラと出会った。俺たちはすぐ二人組んでインチキをやった。

ベルトランとマニユエルの目配せ。

マニユエル　マリアからマルタか、とにかく聖女です。私は夢の中でこう思いました。「あなたがどなたか存じませんが、でも私を見守って下さっている。祝福して下さい」

ベルトラン　俺たち二人とも美容師って触れ込みだったんで、俺は奴にフランス語を教え込まなきゃならなかった。俺たちボコクで一番大好きな家に入って、そこで……

マニユエル　あれは誰だったんでしょう？　あなたですよ、きっと。

エリアーヌは楽しそうに客間を見る。ベルトランがむしゃむしゃ食べているのを見る。

エリアーヌ　まあ、どうでしょう？　あの大食漢を見てちょうだい。（ステージからおりる）片っ端から詰め込んでいるわ！　あなた、駄目よ、破裂しちゃうわよ！（足早に蓄音器のところへ行く）今夜は思い切り楽しむのよ。踊って、笑って、あなた方は私のナイトなの。だからもうちよつとちゃんとしてくれないじゃ。レコードをかける。「一九三三年の金を掘る男」ゴールドデイガーズのようなチャールストン

の曲。それからベルトランのところへ行く）あなたぶくぶくよ、ガブリエル。やせる方法はたった一つ、踊ること！ さあ、いらっしやいよ！

今度はマニユエルがステージから降りてきて、小さなテーブルに行き、シャンパンの桶を持って、ビッツフェに行く。そこで、半分桶に入っているシャンパンをあけ、すぐ桶の中に入れる。ベルトランは立ち上がる多、エリアーヌの誘いに乗らず、手を取られたまま立っている。

ベルトラン　ぶくぶくだなんて、さんざん食べたからですよ。だっておいしいスープに、栄養たっぷり、鶏、今まで食べたことのないような大きな肉のかたまり、それだけ食べりやそりや腹はでますよ。

エリアーヌは無理矢理彼をステージに引っ張って行く。

エリアーヌ　恥じよ！ 太るのは！ 嘘つきはみんな太ってるわ！ さあ踊りましょう！

二人はステージに上がる。

ベルトラン　こんなの踊ってくとないですよ！

エリアーヌ　ばかばかしい！ 誰だって踊れるわよ。今から覚えればいいじゃない？

ベルトラン　だったら、何か他のがいいな。タンゴとか、ワルツとか：前からワルツを踊りたいなって思っていたんですよ。

エリアーヌはすでに一人でチャールストンを踊りはじめている。

エリアーヌ　簡単よ、ごちゃごちゃいわずに、私を見てごらんさい。足をこうやればいいのよ。膝を曲げて、ほら！ 手はこうよ、さあやって、ほら、ほら……（彼を位置につかせる。彼がされるままになっている）さあ！ リズムに乗って！ 身体ごと投げ出すのよ！ チャールストンはリユーマチにとってもいいのよ、関節炎も、便秘にも。緒泥ましよう！ ほら踊って！ 踊って！

彼女は踊る。彼は真似をしようとする。はじめはひどくごちないが、だんだん様になって来て、踊れるようになる。エリアーヌは大いに楽しんでいる。マニユエルは、ずるい管理人が半分かくれているみたいな恰好で、シャンパンをあけ、それからバルコニーを横切る。片手にビンを入れた桶を持ち、片手にコップを持ち、口には煙草、ヴァレンチノ顔負けの恰好。バルコニーに落ち着き、酒を飲み、煙草を吹かしながら、ステージの上のスペクタクルを眺めている。

ベルトラン　ほんとだ、あなたの言った通り。腹ごなしにもってこいだ。食つても全部かか踵から出て行く。

エリアーヌ　もつと早く！ もつと！ そう、そうよ。のりはじめたじゃないの。

ベルトラン　ほんと？ そう思う？ たしかに楽になったみたいだ。どうもこのステップが難しいな。

エリアーヌがやったお尻をかかとでかるステップをやってみせる。

エリアーヌ　ほら、簡単よ。リラックスして。足にまかせとけばいいの。リズムを感じて、踊るのよ。身体がまるで別なかんじでしょう。楽器！ 風！ 風に吹かれる木の葉……（彼女は彼に見せるために踊る。そのうち突然、ベルトランが踊りにのりはじめているのに気づく）そうよ！ 踊れるじゃない、ガブリエル。あなた踊れるわ！ マニユエル、ほら、見てごらんなさい。

マニユエルが陰気な恋の男のように、薄暗らがりです。ずっと酒を飲み煙草をふかし続けているのを見て、エリアーヌは踊りをやめる。一瞬驚嘆の面持ちで彼を見る。それからゆっくり後ずさりして去る。ベルトランはもう夢中になっている。

ベルトラン　おい、見てみるマニユエル、ほら、踊ってるんだぞ！ チヤールストーンだぜ。畜生！ 若い奴らに負けないぞ！ ワ

ルツなんかじゃないんだ。ほら見ろよ！ 天使のステップを踏むガブリエル、今度は俺は何て名にするかな。お前はもう中年の下り坂に足を突っ込んでるだけだ。俺はチャールストンのリズムでよみがえった。俺は踊ってる！ 足が俺を運んで行く、昔のことなんかみんな忘れちゃうよ。畜生、もっと早く覚えりゃよかったな！ 一生こんな風に踊り続けてやる！ 踊ってりや世間の騒ぎ何てどこ吹く風だ……ガブリエル……大天使は……地上を離れ……あるかかあなたに……雲の上に……舞いあがるガブリエル・ベルトラン……俺から何をとりあげたっていいが、チャールストンだけは駄目だ……俺は踊る！ ……踊る！ ……踊るぞ！ ……

ベルトランは心が痛くなるほど喜びに駆られる。そして、突然レコードの調子がおかしくなり、同じところを何度も何度も繰り返す。レコードが駄目になったのに気がつかず、ベルトランはずっと踊り続ける。そして、息が切れ、気が転倒し、倒れる。しばらくの間、彼は荒い息づかいと、繰り返すレコードの音が聞こえている。マニユエルは、冷たく、動かずに、飲んだり、煙草を吹かしたりしている。そして

マニユエル 馬鹿な真似はやめろよ、ベルトラン。年を考えろ年を。そんなことしたら死ぬぞ。

ベルトラン いやってほど踊った、俺のエンジンはまるで、気狂いみたいに回るんだ、参った！ さ、チャールストンはこれでおしまい。

ベルトランはレコードをとめようと蓄音器を叩く。マニユエル 賭けたっていいが、ウイリアム・シンプソンはチャールストンを踊っていて心臓発作したんだと思うね。ほら、一口飲めよ。

ベルトラン だけどな、いいもんだぞ。今日は少しやり過ぎたけどな。これから毎日適当にやるよ。うまくなるように。太り過ぎ

ないように。踊るぞ、畜生、死んだっていい、俺はやるぞ！
マニユエル 飲めよ。

ベルトランは飲む。マニユエルはそれを見ている。

ベルトラン (小さな声で) マニユエル……最近俺、ひどくふけたか？
マニユエル 誰だって年をとるんだ。毎日少しずつ。死んでまた生まれる。いやまた生まれるってことはないな。地獄に行くんだ、じゃなきや天国に。じゃなけりや何処にも行かない。そして神が存在する。いや神は存在しない。あまり考えすぎないほうがいい。気違いになるか、憂鬱になるかだ。そんなことしたって何の役にもたちやしないよ。生きるんだ。生きてること、それしかない。今あんたは、ここで今夜、不運なバガボンドさ。そして俺は、スペイン娼婦とインディオの間抜けとの間に出来たガキだ。あんたは大天使、俺は今夜、一度はここでセニョールと言われた男。シャンパンを飲もう。宝石と小切手を待ちながら。俺たちは年なんてないさ。なあ、ベルトラン。金持ちだけだよ、何だって手に入れられるのは、健康、鼻の整形、他人を踏みつぶす権利……自由……なのに奴らときたら俺たちに自由があるなんて言いやがる、俺たちが自由なんだってさ。ポケットに一文もなかったら、生きるために人に雇われなけりやならない、身を売らなきやならない、何が自由だ、もし奴らがそんなこと言ったら、思い知らせてやろうじゃないか、なあ、ベルトラン？

陰気な恋の男は消え、荒々しい喜びに浸されている。

ベルトランはその一言一言をまるで子供のよう
み込む。彼はうれしくてたまらない。

ベルトラン 何をやるんだ！

マニユエル もし奴らが貧乏人の自由なんてことを俺たちにぬかしやが
ったら、その面おもてにしよんべんひっかけてやるんだ、こうだ
……こう……

ビンから酒を勢いよく注ぐ。二人は子供のよう
う。突然、真つ暗になる。

ベルトラン 畜生！ どうしたんだ！

マニユエル またあの女やりやがったな！

明かりがバルコニーにやわらかく差し込む。部屋の真中は暗い。ステージに特別な明かり。遠くから、ジョン・キーツの詩、「無情の美女」を朗読するエリアヌの声が聞こえて来る。マニユエルとベルトランはのりだして、ステージに集中する。

エリアヌの登場を迎えるための強烈な音楽。長いドレスを着、ヴェールをかぶり、薄い豪華な、しかし古くなった布をまとって、エリアヌが現れる。文字通り宝石でおおわれている。カトリックの聖処女か女神の様なイメージ。布はマドラスから来たもので、シンプソン大佐の贈り物である。彼女は明晰に感覚的に、しかしいくらか古めかしい感じで詩を朗読する。すべては感動的で美しい印象。決して滑稽ではいけない。他の「領地」に生きる人間の感動を伝えるため、カリカチュアをやるつもりではないからだ。

マニユエル 宝石だ！

ベルトラン 一財産だぞ！

マニユエル きらきら光ってる！

エリアヌは腕に花をいっぱい抱え、素晴らしい世界に遊びながら近づく。俳優、裏方、演出家、おそらくエリアヌがすべてを演じながら操作するのである。色々なものがステージの天井からおりてくる。

ステージの明かりが落ち始める。エリアヌは去る。ステージのカーテンがゆっくり下がって来る。

前の明かりに戻る。マニユエルは急いで駆けおる。

ベルトラン どこへ行くんだ？

マニユエル 宝石だ！

彼はステージに上り、去る。ベルトランも降りて来

る。

ベルトラン 待てよ！ そりやまずい。まだいくらでも時間はあるじゃないか！（舞台裏で物音と叫び声が聞こえる。ベルトランはすてーの階段を上がり、裏で起こっていることを見る）やめろ！ 駄目だよ！ そんなことしたら……

拳銃の音。ベルトランは奥へ行く。

ベルトランの声 マニユエル！（舞台にはしばらく誰もいない、しばらくしてベルトランの近づいてくる声が聞こえる）だから言わないこっちゃないんだよ、この馬鹿……いつだってお前は何でもすぐやろうとするんだから。

二人が入って来る。マニユエルは白いシャツになっていて、左手をたらしめている。前腕のところに血のしみ。ベルトランが支えている。二人はソファのところに降りて来る。

マニユエル あの女！ ばつちり撃ちやがった！

ベルトラン 文句言うなよ、馬鹿！ あの女、前からちゃんとそう言ってたじゃないか。ほら。（腕をつかんで、シャツをまくりあげる）見せてみる！（見る）お前ついているよ。弾はかすっただけだ。

ハンカチで包帯をしてやる。エリアーヌが、髪を乱し、手に拳銃を持って現れる。

エリアーヌ ごろつき！ ろくでなし！ ちんぴらのくせに！（拳銃を投げ出し、身につけている宝石を掴む）これが欲しかったの？ あんたに興味があるのはこれ？ これ……これ……これなの？ そう、そう、さ、取りなさい！ あげるわよ……これも……これも……これも……全部……！！

宝石をはずして、ベルトランとマニユエルの足元に投げる。ヒステリーを起こし、ステージにガクツと膝をつく。

マニユエル まさか、何てこった！ 宝石だ！ おい、宝石だぞ！

エリアーヌは、ステージに膝をついたまま、二人の男が四つん這いになって宝石を探しまわるのを見て

いる。

エリアーヌ 全部持って行きなさい！ 指輪も、ブレスレットも、首飾りも。どうして私がそれをあんた達みたいな詐欺師の盗っ人にあげるか分る？ 贖物だから、その宝石は。模造品、ガラス玉、ただ光っているだけの石ころ。(マニユエルは探すのをやめて、女を見る) 他の、本物の、シンプソンとバークントンからの豪勢な贈り物は、とっくにここにはないの。ハンスにあげちゃった。だってあの人は何一つ欲しがらなかったから。ハンスは最高級の男よ。帝王よ。(マニユエルはじつと女を見ている。ベルトランはランプの下で宝石を見て、投げ捨て、がっかりする。エリアーヌはステージのふちに手を置いて立っている。マニユエルは手に宝石をいっぱい持ってうずくまっている) あの人は、宝石にふさわしい男だったわ。あんたは何さ、インディオ、貧乏人、乞食、ガス。私から無理矢理奪い取ろうとして……あんたなんかには贖物がちょうどいいの。

ベルトランはマニユエルに近づく。彼はマニユエルがヒステリーを起しているのに気がついている。

ベルトラン おい……落ちつけよ……一息いれろよ。おい、マニユエル……

マニユエルは激しい身振りで相手をこばみ、ステージに家具に、宝石を投げつけはじめる。

マニユエル こんな贖物、へっ、石ころ……あんたそっくりだ……まるでそっくり……全部贖物……ミセス・パーキンソン・シンプソンも……全部贖物……うっかりあんたを手に入れたり……愛したり……触ったりしたら……さあ大変、相手はミイラだ！ 本物の宝石は俺のものなんだ……あんたの物でもハンスの物でもない……あんたら、盗っ人の血をひく紳士と淑女さ……金や銀ばかりじゃねえ、俺たちの血や命までしぼり取りやがって……宝石は俺のものだ……苦しみ通しで、土地は奪われ、五〇〇年にわたって踏みつけにしががって、かすばかり食わしやがった……俺にはあんたを

身ぐるみひつpegがしてやる権利があるんだ……あんたには
贗の宝石を食わしてやる……贗の言葉を食わしてやる……
あんたの嘘をたらふく食わしてやる……食え……さあ食
え！

エリアーヌはマニユエルのヒステリーに魅せられた
様に立っている。彼は女に飛びかかって、片手で首
をつかまえ、片手で宝石を顔に押しつける。今度は
ベルトランが彼を引きとめる。

ベルトラン やめろよ！ なあ、マニユエル！ もういい！ もいい
よ！

ベルトランはやっとエリアーヌからマニユエルを引
き離し、エリアーヌに手を貸して立たせる。

エリアーヌ まあ、何て事を！

ベルトラン さあ……もういい……もういい……ちよつと休んで……顔
を拭いて……マスカラが台無しになっちゃったじゃないか
……さあ、グラスを取って、何か食べたなら……せつかくの
立食パーティが、これじゃ御馳走が台無しだよ。どこか痛
くない？

エリアーヌ いいえ。私はいらいらしてたもんだから。あの人もそう。
二人とも大丈夫だわ。

ベルトランはエリアーヌを立たせようとステージに
上る。そばでマニユエルがエリアーヌが床に捨てた
拳銃をつかむ。今、彼は舞台の中央に居て、女に拳
銃を突き付ける。

マニユエル 動くな。

エリアーヌとベルトランは出て行こうとしたが、立
ち止まる。

ベルトラン 何てことをするんだ、おい。

マニユエル 宝石は贗にしても、小切手のサインは贗じゃないはずだ。

事の成り行きに驚いて、ベンドランはステージのへ
りに座り込み、頭をかけてしまう。エリアーヌはひ
るみも見せずに、前に出る。

エリアーヌ どうすればいいの、え、インディオのお兄さん！

マニユエル 一万ドル欲しい。やつが（と、ベルトランを指す）取りに行く。俺はここに残る。奴が金を持ってきたら、俺たちは出て行く。

エリアーヌ で、サインをしなかったら？

間。

マニユエル 撃つ。

ベルトランは二人を交互に見る。

エリアーヌ いいわ、あなたが男なら撃てばいいよ。（彼女は客間を示し）どうせ私はこの墓場でさんざん生きて来たんですからね。もう死の世界の人間だわ。撃ちたかったらお撃ちなさい。

エリアーヌはゆっくり両手を開く。ベルトランはマニユエルに飛びかかろうとする。しかしマニユエルは静かに手を下ろし、家具の上に拳銃を投げ出す。

そして小さなテーブルのところに行つて、酒を注ぐ。ベルトランはステージから降りて、テーブルに行く。俺も、のどが渴いた。腹も減った。畜生、びっくりしたんで腹がぺこぺこだ！

エリアーヌ （優しい声で）あなたがたに一つ提案があるの。お二人に。（二人の男はふり向き、彼女を見る）それぞれ二千ドルずつ。それから鍵。

エリアーヌは胴から南京錠を開ける鍵を出す。小さな鎖がついている。間。二人の男は顔を見合わせる。またお互いに連帯を取り戻す。

ベルトラン 条件は？

エリアーヌ 労働よ。

ベルトラン どんな労働？

エリアーヌ それぞれ二千ドルずつ、どう？

ベルトラン どんな労働？

エリアーヌ 遊びよ！ 今、説明するわ。いらっしやい！

マニユエルは同意する。エリアーヌは後ろを向き、去る。ベルトランは両手に小さなサンドイッチを持

つて、急いで後を追う。マニユエルはステアーの方
に行きかけるが、やめる。拳銃を見る。かがむ。拾
う。ポケットにそれを入れて、彼も急いで去る。

第三幕

インドの音楽——フルート——パンジャブ。

エリアーヌ

(録音) 一九三六年六月十七日、ベナレス。ひどい暑さが
一日中続く。地面が汗をかき、空気は息苦しい、木や石が
焼けつくこんなひどい暑さに私はどうしても慣れることが
できない。窓を全部開け放つてみたが、風を当てにしても
駄目だ。ぜんぜん吹かないのだから。ケナス・W・パーキ
ントン大佐が私を待っている。まるで裁判所にでも呼び出
すように、妻の私を呼び出したのだ、クアラの話をするた
めに。

ステージのカーテンは閉っている。バルコニーのカー
テンも。明かりは下手の真中に集中している。下
手の前舞台の、ほとんどバルコニーの下に、インド
のイギリス植民地スタイルの肘掛け椅子が一つある。
観客には帽子と椅子の腕にもたれかかっている肘だ
けが見える。

エリアーヌはソファに肘掛け椅子に対して斜めに座
って、足を投げ出している。低い小さなテーブルの
上には、タロットゲームや、コップの乗ったお盆、
それに氷の桶と栓を抜いたシャンパンのビンが乗っ
ている。それに、煙草の箱と、灰皿と、テーブル用
の大きなライター。

エリアーヌは一九二〇年代の終わりか、一九三〇年
代はじめの長い夏のドレスを着ている。片手に真珠
の長いネックレスを持ち、もう一つの手に長いネッ
カチーフを持って遊んでいる。インドの音楽が小さ
く、非常に控え目に鳴っている。

エリアーヌ 分ってちょうだい、分ってやろうと思っただい、せめて分ろうと努力だけでもしてみ、ね、ケネス。そんなお願い虫が良すぎるかもしれないけれど？（返事が返って来るかと待つ、椅子をジッと見て）恋愛じゃないわ、恋人でもないわ、これは友情なのよ。（間）男と女の間にも友情って成り立つのよ。一人の人間の精神的な結びつきなの。ケネス、友情なのよ。（彼女は向きを変え、煙草を取るために小さなテーブルに軽く寄りかかる）クアラは確かに現地人よ。もしあなたがそう呼ぶことにこだわるならね。でも、それよりまずあの人は、詩人なの。（煙草に火をつけ、椅子の方をジッと見る）それに、どうしてそうやって区別したり、レッテルを貼ったりしないやらならないのか、私は分らないわ。（悪い思い出を追い払う様に、一瞬ハンカチを口に当て、喋りながらシャンパンをグラスに注ぐ）だって、あの人はちゃんと英語で書いてるわ。なぜ英語で書くのかも、説明してくれた。（さっと一口飲み、彼の言葉を思い出すように眼をつぶる）「経済的政治的な植民地化についてはあれこれみんな言う……」

音楽がしばらく高まる。明かりが少し変化する。ステージのカーテンが開く。マニユエルがインドの服装で現れる。下に降りて来て、エリアーヌのうしろにしばらく立っている。音楽がまた控え目に鳴っている。

マニユエル 経済的政治的な植民地化についてはあれこれみんな言う。しかし、もう一つの致命的な不幸、文化の植民地化についてはほとんど誰も言わない。学校に通う子供たちはじわじわと植民地化され、大学に入ろうとする植民地の若い学生は心をむしばまれる。我々の耳にはいつもこう言う囁きが聞こえる、お前の声を聞かせたいなら、お前の主人の言葉で語れ。皮膚の色や生まれは関係ない。お前は我々のように自分を語るじゃないか。お前は我々と同じだ。いや、それは裏切りなんかじゃない。同化なんだ。お前はお前の国

について語り、自分を語り、ちよつと異国的だが、実に魅力的なこの環境について語ればいい。ちよつと奇妙な信仰とか、変わった音楽とか、いろいろな香料とか、すごく甘い果物とか。こういう異国的なものが私たちは大好きなのだ。民族的なものみんな好きだ。語れ、語れ、大いに語れ、ただし我々の言語で。(音楽がまた高まる。マニユエルは前に出て、ソファの足元のクッションに座る。エリアーヌは彼を見て、「また現れた彼」が消えてしまうのを心配するように軽く彼をなでる) 僕はその囁きにまどわされてしまいました、ミセス・パーキンソン。

エリアーヌ

エリアーヌ……クアラとエリアーヌ……。

マニユエル

はつきり事態が変わるまでにはかなり時間がかかった。しかしある日、鏡にうつつた自分を見て、こう思った。「お前は裏切った」お前はひとの音楽に乗せられて歌ったり喋ったりしているじゃないか、まるでぜい沢なオウムだ。だったら少なくともこの事態をきちんと判断しろ、問題は同化なんかじゃない、裏切りなんだ。「現れた」時の顔つきに戻って彼はゆっくり立ち上がり、階段を上って、またカーテンの向こうに姿を消す) 俺は裏切った……裏切った……

インドの音楽が終わる。エリアーヌは彼を眼で追い、ステージの方をずっと向いたまま、椅子に座っている人物の質問に答える。

エリアーヌ

クアラの詩がどんな詩かって？ (また椅子の方に振り向

く) どうせあなたも読むことになるでしょうよ、ケネス、そのうちあなたの警察があなたの仕事机の上に置くでしょうから。(立ち上がり、上手の方へ行く) ええ、私はもちろんあの人の詩を読みました。あなたが怖れるような秩序を破壊することなんて何も書いてありません。繊細で優しい詩よ。季節や子供時代の思い出や出会えいについて語っているの、時には愛のことも。え、そりゃヒンズー語でも書いてあるわよ。(彼女は聞き返す) あんな詩じゃない、政治的なアジビラですって？ それじゃこの国の人民の飢

えとか、悲惨とか、苦しみを書いているのよ、きつと！ だって実際にあるんですもの。あなただってよく知ってるはずよ。もしその詩が危険だとしたら、真実を語っているからでしょうよ。じゃあそういう声を封じれば、すべては解決すると思う？ あなた、自分のしたことをフェアプレイだっているの？ あれがフェアプレイなの？ あなたはあの人を牢屋に入れたわ、私の恋人だったという理由ではなく、詩が革命的だったという理由で。私の手紙は開けられ、あなたのスパイは私の後を付け、あなたは私たちの逢引きの一つ一つをみんなつかんでた。私は結局おとりの役をしたんだわ。それでもあなたはフェアプレイだったって言うの？（椅子の脇に立って、身をかがめ、彼にしがみついて）あなたはあの人を閉じ込めといて縛り上げ、さんざん殴り、拷問したのよ、あそこで……嘘よ！ あの人には自殺するような人間じゃないわ。殺されたのよ。あなたが殺せと命令したのよ。エネス・W・パーキンソンがね。あなたよ！ あなたよ！（彼女は膝をつき、怒り狂って椅子をぐるりと回す）あなたがしたのよ！ 人でなし！

椅子をゆさぶる。観客は、椅子に座っているのが、顔のところにドクロを付けた制服姿のマネキンであることが分る。ミセス・パーキンソン・シンプソンが最初の夫の遺骸を保管してたのかのように、本物の遺骨のように印象を与えなければいけない。インドの音楽はモノローグの終りに盛り上がって終わる。エリアーヌは手で顔を隠して、膝を折り、ちぢこまって座っている。「人でなし！」と叫んだ時、ベルトランが上手奥のステージのそばにさっと現れる。ニッカポッカーを履き、ツイードの上着を着、テニスシューズを履いている。イギリス風の付けひげを付け、肩にゴルフのバック。バックをソファの上に置き、肘掛け椅子のところに行って、下手の壁の方を向ける。骸骨は消える。それから彼はエリアーヌの

ところに行き、立たせ、ソファのところに連れ来る。

ベルトラン さあ……さあ……たいしたことじゃないよ……さあこつちへ……気を静めて……こつちに……座って……

エリアーヌ 殺したのよ。冷酷に。殺せと命じたの。

ベルトラン そんなことはもう忘れた方がいい。過去のことはそつとし

とくんだ。昔のことを掘り返してもろくなことはないよ。

どうしたら一生若さを保てるか知ってるかい？（分らな

いという風に彼女は頭を振る）その秘訣はな、身体は健康

で、頭は健忘症、何でも忘れちゃえばいいんだ。さあお飲

みなさい。（酒を注いでグラスを差し出す）はい、煙草！

（彼女が選ぶように葉巻のケースを差し出す）それに、も

う死んだ人のことは考えない方がいい。死んだ話なんかし

ない方がいい。ここらの原住民がいい例だ。連中は死者へ

の儀式をやつて、幸福そうに見えるかい？ いや。あれは

過去を耕しながら眠っているんだ。彼らは進歩の列車に乗

りそこなつて、二〇世紀の最中に、まだ野蛮な状態にいる。

大事なのは生きることだよ、エリアーヌ。人生をささえて

いるのは活力だ。未来を見る目だ。オプティミズムさ！ ダ

イナミズムだよ！ 北アメリカの連中を見てごらん、まる

でロケットみたいに未来を指して突き進んでいる。ああで

なきやいかん、あんたも、私も。あなたはパーキンソン夫

人じゃない、シンプソン夫人なんだよ。私たちは今夜ここ

に大勢客を招待してる。そのことだけを考えればいいんだ。

このパーティのことだけを。今宵を友情と、幸せと、満ち

足りた人生に奉げるんだ。さ、乾杯だ、エリアーヌ。

エリアーヌ 乾杯！ ビル。ダーリン。

二人は飲む。幸せそうな振りをして、二人は視線を
交わす。

ベルトラン ダーリン！

遠くから旧ナチ国防軍のコーラスが歌う「世界に冠
たるドイツ」が聞こえて来る。ステージのカーテン
が開く。SSの制服を着たマニユエル。今度はほと

んど白っぽいブロンドの髪をつけ、青いガラスの入った小さな眼鏡をかけている。

ステージの上にあるのは、マニユエルの姿をうつしだす幾つかの鏡だけ。マニユエルはステージのまわりを、ある時はあっち、ある時はこっちと自分を鏡にうつしながらゆっくり回る。まるでスローモーションの様に手を挙げナチスの挨拶をし、それからいろいろなポーズをとる。

ベルトラン (エリアーヌに、マニユエルをそつと指し) ほら、またはじめた！

エリアーヌはステージを見て、子供の気まぐれを見るように微笑む。立ち上がり、手にグラスを持って、下手に行き、カラフルなインドの肘掛をつかみ、椅子の上に投げ、マネキン(故パーキントン)を完全に隠す。それから蓄音機のところに行つて、レコードを選び始める。

エリアーヌ 今夜はどなたを招待してあるの？

ベルトランは手帳を出し、名前を読み始める。

ベルトラン 共同経営者のラリー・ゴードン夫妻。

エリアーヌ あら、大変！

ベルトラン 呼ばない訳にはいかないさ。スミス夫妻、パーカー夫妻。

ロベス夫妻、プエルトリコ人の夫妻だ。これも呼ばない訳にはいかなかった。黒人と白人の混血だよ、ほとんど白人と言つてもいいほどだけだね。大金持ちだ。それからミルトン・ブルック夫人……

エリアーヌ 素敵なお集まりなこと！ 今夜のパーティーは最高よ！

読み上げながらベルトランはステージをちらつと見る。彼はだんだん神経質になる。

ベルトラン コロンビアの百万長者ペレス・セレノ夫妻。ハミルトン夫妻とミス・ロルナ・ソーサ……おいおい、エリアーヌ！ あいつは一日中レコードを聴いたり、あんな制服を着こんで、ベルリンの群衆の前にも居るつもりであんな身振りをや

り続けるのかな？

ベルトランは憤慨してまた立ちあがる。エリアーヌは手にレコードを何枚か持っているが、かけない。ベルトランはステージすれすれに近づく。上着のポケットから双眼鏡を出し、まるで遠くに居る人間を見るようにマニユエルを見る。

エリアーヌ ああやって古傷を癒しているのよ。そのうち北向きの控えの間に閉じこもってしまうわ。海の方を向いて。そうするともう顔も見られない、声も聞けないの。

ベルトラン 私には見える。声もちゃんと聞こえる。やつはわざとああやって人目を引こうとしてるんだ。

エリアーヌはレコードを掛けるのをやめて、蓄音機の台に置いてあつたグラスを手に持ち、バルコニーの階段の方に行く。

エリアーヌ わざとやっているんじゃないわ。青春の一番いい時を過ごした制服だからああして着てるのよ。人目を引こうとしてるんじゃないわ。真実を見つけ出そうとしてるのよ。古い習慣に新しい意味を見つけようとしてるんだわ。

エリアーヌは上にあがり、バルコニーのカーテンが閉まっているので、観客の目から見えなくなる。ベルトランは双眼鏡をポケットにしまい、下手の方を向き、エリアーヌがずっと蓄音機のそばに居るかのようには喋り続ける。

ベルトラン お互い了解し合つときたいことが一つあるんだがね、エリアーヌ。出来るだけ慎重にしようじゃないか。戦争が終わってちょうど五年だ。まだみんな傷口が塞がっていない。私はこの中南米でイギリスの商業と経済の力を示したい。あなたも知っているように私の取引相手はほとんどユダヤ系のアメリカ人だ。もし私たちが昔のナチを家に泊めていることが分かったら、どうなると思う？ 大変なことだよ！ しかもただのナチじゃない、SSだよ！

エリアーヌ ハンスは全部私に話してくれたわ。戦争がはじまった時、

あの人は十八だったの。あの人のお父さんは第一次大戦の英雄で、おじいさんは一八七一年フランスと戦った人。軍人として伝統ある一家なのよ。十八だったら、この伝統をそのまま信じるのは当然です。間違いを犯したって当たり前のはなしよ、あの人の罪じゃないわ。

ベルトランはお菓子とサンドイッチを乗せたお盆を持って戻って来る。低いテーブルにそれを全部置いて、座り込み、喋りながら食べる。

ベルトラン 一つ大事なことを思い出して欲しいんだがね、ニュールンベルグの裁判で、SSは全員有罪になり、危険な犯罪人だと決めつけられたんだよ。しかもあの男（サンドイッチを持ったままステージの方を指す）アドルフ・ヒットラーの個人的なガードだったんだ。私の言いたいことが分るかね？ 全員有罪だ！ 一人残らず汚れているんだ！

ベルトランは口いっぱい頬張る。

エリアーヌ 誰が一体人間の罪の重い軽いを決めることが出来るの？ 神様だって何度間違えたか分らないじゃないの。聖書を読んでごらんさい。この世のはじめから光なんてないのよ、不正ばかりが人間の心を支配して来たんだわ。私はそのことをちゃんと知ってるの。無実な人間が殺されるのを見たんですもの。

ベルトラン 分った。あなたの詩人は殺された。でも頼むかがお墓はしばらくそつとしよう。今日のことを話そうよ。私は国際的な取引をやっているんだ。そこであなたに心からお願いするのだが、今夜の、夕食の後にも、あのお客さんには立退いてもらうことにしようじゃないか。何処でもご本人が希望するところの飛行機代を私は用意するよ。そりや出来るだけ遠くに行ってくれた方がたいがね。こずかいもいくらあげましょう。ともかくここから出て行ってさえくれりゃいいんだよ、くそっ！（ちよつと笑って）いや、ごめん、やれやれ。

音楽がやむ。マニユエルがゆっくりステージから降

りて来る。バルコニーのカーテンが同時に開く。マニユエルは踵をカチンと合わせ、ドイツの軍隊式の敬礼をする。

マニユエル シンプソンさん、ちょっとお話があるんですが？

エリアーヌは、自分の椅子のそばに、シャンパンの桶や煙草や、いろいろなものを置いてある。彼女はまるで芝居の上演でも見ているようにこの場を見ている。劇場用の双眼鏡を使ったりもして。ベルトランは腹を立てて葉巻の先を噛み切る。マニユエルに座るように合図をする。

ベルトラン まあかけたまえ。ちようどいい。私の方も君にちようど話があるんだ。(マニユエルは座る。ベルトランは煙草の箱を差し出す) 葉巻はどうかね？

マニユエル いいえ、結構です。

ベルトラン なるほど、煙草はのまないんですか、ではお酒をすすめても無駄だろうね。もちろん飲まないだろうから。ロマンチックの英雄の典型だ。(間) ロマンチックの英雄は自分の純潔をひどく大事にするから、少なくとも彼らは自分の主人や保護者を裏切ってその妻と通じたりはしない。

マニユエルは平然としている。ベルトランは口に葉巻をくわえ、ちよつと仏頂面になる。エリアーヌは酒を飲むために注ぐ。

マニユエル シンプソンさん、私は南アメリカ在住の昔の友だちとコンタクトを取りました。それにドイツ連邦の友人とも。

緊張した一瞬。

ベルトラン それで？ また突撃部隊や長い陰謀の夜や捕虜収容所を我々のところに持ち込もうとしているんですか？ そんなことを私に話したかったんですか？

マニユエルは魅力的に微笑む。

マニユエル 昔の敵対関係をまた掘り起こすつもりではありません。死者は死者です。報復なんていう精神は馬鹿どもに任せておきましょう。私はあなたともっと具体的に理にかなった話

をしたいのです。一言でいえば、シンプソンさん、私はあなたにある取引を持ちこむようにと言われて来ました。

ベルトランはマニユエルが喋っている間、お酒をまた注いだり、眼鏡を探したり、自分の手帳を読んだり、何か書き込んだり、いろいろとやっている。

ベルトラン 私と私の会社はあなたやあなたの仲間と、どんな取引について話し合うのですか？

マニユエル (一つ一つ言葉を切つて) 鉛。^{なまり}錫。^{すず}ポリビアの亜鉛。^{あえん}ブラグアイの高級木材。アルゼンチンの小麦。ブラジルのコーヒー。ベネゼーラの石油。確かに我々のドイツ民族には欠点もありますが、規律と組織を作るセンスがありますし、仕事への情熱もあります。そのおかげでいたるところに根をはり、繁栄していることは認めていただけたかと思えます。あなたがたと私たち？ (短く笑う) シンプソンさん、我々は精神的な同志です。アングロ・サクソン人は一たん腰をすえると、その土地の甘い汁を根こそぎ吸い上げてしまう。私は別にあなた方の植民地の歴史に賛辞を呈するつもりはありません。何しろあなた方は、怠惰な原地人やスペインの征服者たちのずさんな管理にゆだねられていたこと巨大な大陸の底知れない財宝を、どう吸いあげるか、それを何世紀にもわたって世界に示して来たんですからね？ (今度はベルトランは注意深く聞いている) 五年、たった五年で、あっちこっち散って行った一握りのドイツ人亡命者たちは立派な商業組織を作り上げました。(間) シンプソンさん、私の仲間はあなたと商談をしたがっているんです。

間。二人は見つめ合う。

ベルトラン ミスター・ハンス・シルドクラフト、私の取引のことでいろいろ御配慮下さいました。確かに相手の経済的な力と言うのはとても大事なことです。しかし、相手の評判と言うのもそれに劣らず大事です。名前をいつわって五年間でラテン・アメリカに基礎をすえたあなたの仲間のこ

とは、みんなよく知っています。もし私が私らと関係を持ては、次の朝には、私の仕事机は公式の通達や投書やおどしでいっぱいになるでしょう。私がそう言う意志を持ったと言うだけでもですよ。分りますか？ それがもし実際に……いや、ミスター・ハンス・シルドクラフト、彼らと商談をする訳にはいきませんよ。

調子が変わった。ロンドンの秘密クラブのような雰
囲気。マニユエルは乗り出して葉巻をとる。

マニユエル シンプソンさん、誰が彼らと直接取引をしろといいましたか？

葉巻を選ぶ。ベルトランは急いで火を付ける。

ベルトラン と言うと？

マニユエル あなたがすでに取引をしているドイツの他の商人との取引
つてことにしておけばいいんじゃないですか。

ベルトラン その本社はいったい何処に……？

マニユエル フランクフルトです。きれいな商売ですよ。評判は非の打
ちどころがありません。世界の主要都市に代理店や支店を
持っています。

ベルトラン それで私お方はどうすればいいんですか？

マニユエル 南アメリカの穀物と屠殺場と鉱山。それをヨーロッパに結
びつける仕事です。危険はまったくありません。非常に有
利な取引です。

ベルトラン で、マージンは？

マニユエル 相談しましょう。でも二十パーセント以下ってことはない
でしょうね。ドルとドイツマルクで何百万って取引になり
ます。

エリアーヌは二人をうれしそうに見てグラスをあげ、
「乾杯」とつぶやく。

ベルトラン で、はっきり言って何故お選びになったんですか？

マニユエル 私の仲間はいろいろと調査をしました。あなたはここで尊
敬されています。まさかあなたが我々に好感を持つなんて
誰も思わないでしょう。しかしあなたは私をこうして迎い

い入れ、かばって下さった。それろ私の仲間を知っているのです。

ベルトラン シルドクラフトさん、人生が私に人間は時々友人と敵とを間違えるから気をつけるようにと教えてくれました。汚れないバランスのとれた人間は過去を恨んだりしないのです。あなたと私、私の仲間とあなたの仲間、私たちはこの次は同じ戦場で肩を組み合うことになるかもしれないじゃないですか。

マニユエル 承知していただけたと思っただけいいのですね？

ベルトラン 乾杯しましょう、我々の友情と、我々の未来の計画と、実を結ぶであろうこの協力を祝って、ドイツ国家に乾杯！

ベルトランは立ち上がる。マニユエルも。

マニユエル イギリスに、乾杯！

二人は飲む。エリアーヌも立ちあがる。

エリアーヌ ブラボー！ 完璧よ！ 素敵だわ！ まさにこの通り、現実は。

エリアーヌは拍手する。ベルトランはバルコニーの方を向き、俳優の様に挨拶する。マニユエルは足早にステージに上がり、去る。

ベルトラン さてと、なかなか良かったでしょう！

エリアーヌ ええ、とても、もううつとりしてるわ。あたしが思ったよりずっと上出来だった。いらっしやい、接吻してあげる。

エリアーヌはバルコニーから降りて来る。ベルトランは幸せだ、マニユエルの方を向き、彼が去ったのに気がつく。心配するが、後を追うのをやめる。エリアーヌが腕を大きくひろげて近づき、頬に生き生きと接吻するので、行く暇がなかったのだ。

ベルトラン ありがとう。うまくやれて本当によかった。(間)で、こんな風にハンスとシンプソンはわかりあったんですか？

エリアーヌはまわりをぐるっと見まわす。彼女もマニユエルを探しているのだ。喋りながら蓄音機のと

ころへ行く。ベルトランはマニユエルの腕をつかみ、ステージの方に連れて行こうとする。

ベルトラン もめるなよ。俺たちはちゃんと約束通りやったんだ。あの人の要求通りに。それが本当だろうと嘘だろうと知ったことか、金もらってさっさと退散しようや。

マニユエルは激しい身振りで離し、中央の小さなテーブルに戻る。

マニユエル それも嘘なんだ、ふん、金か。

ベルトラン え？ どういうことだい？ 全部嘘なのか？

ベルトランも中央に戻る。マニユエルは書類カバンから人束の書類を出す。

マニユエル ここに全部書いてあるよ。黒々とね。ロンドンの銀行でシンプソンが著名した書類だ、英語でね。スペイン語のコピーもある。(エリアーヌに示す) ミセス・シンプソンは死ぬ年まで金がもらえるであろう、しかしそのサインは一銭の価値もない。ミセス・シンプソンがサインするのは小切手ではなく、領収書なんだ。銀行が現地の支店を通じて各商店に直接支払いをする。(もう一枚の書類をまた出して) またミセス・シンプソンはイギリスに戻る航空券を受け取ることが出来る。これがミセス・パーキンソン・シンプソンの全財産だ。それからこの新聞の切り抜き、ハンスは……

喋りながらマニユエルは書類を床の上に投げる。

ベルトラン 嘘だ。そんな馬鹿なことがあるか。エリアーヌはちゃんとした貴婦人じゃないか、その貴婦人が俺たちに約束したんだ。どこかに金を持っているに違いない。エリアーヌ、嘘だつて言ってくれ、あんたは、嘘なんてつける人じゃない。そんなの……(動転しながら言葉を探し、シンプソンをまた見る)……汚いよ、やり方が！ 畜生。何とか言ってくれ、エリアーヌ！

ベルトランは彼女のそばに行く。マニユエルが言っている間、エリアーヌは黙って積み上げてある中から一枚のレコードを選んでいる。やっと見つけ、レ

コードを掛ける。キルステン・フラグスタッドの歌う「トリスタンとイゾルデ」である。三人の動きはそれぞれ関連がある。ベルトランが蓄音機に辿りついた時、エリアーヌはまるで歌っているように腕を動かしながら、反対の方に歩く。マニユエルはエリアーヌの前に待ち伏せる。観客には二人の横顔が見える。マニユエルはエリアーヌに切り抜きを見せる。

マニユエル この写真、二人の警官に囲まれ、手錠を掛けられたハンス・シルドクラフト。それからこれはホンデユラスの内務省からシンプソン夫人の協力に感謝する手紙、「泥棒の逮捕に御協力下さいましたことを感謝いたします」

音楽（イゾルデのアリア）が控え目に鳴る。エリアーヌはまるでキーツの詩でも朗読するようにドイツ語の歌詞を言う。

ベルトラン 金はどうなるんだ！ 俺たちはあんたの注文通りやったじゃないか。約束通りのお芝居はやった。金をくれよ！

マニユエル ハンス！

ベルトラン もう取決め通りの額が払えないなら、こうしよう、二人に三千！

マニユエル ハンス・シルドクラフト！

ベルトラン 駄目か？ じゃあ、二千！

マニユエル ハンス！

ベルトラン じゃあ全部で五百ドル！

マニユエル ハンスをめぐる真実！

ベルトラン 二十ドルでもいい！ 国境を越えるバス代だ！

マニユエル ハンス、何てこった、ハンス！

ベルトラン 十ドル……五ドル……何か回数券ぐらい持ってるだろう！
こうなるともう懇願だ。

マニユエル ハンス！！

エリアーヌはベルトランからのがれ、マニユエルを素早く引きよせ、この若者の首に腕を回し抱きつく。そして何か耳元で囁く。マニユエルがそれを声に出

して言う。

マニユエル もとナチの連中との取引きつて言うのは全部ハンスの嘘だ
ったんだ。

ベルトラン エリアーヌ、あなたの話はまったく……あっち行ったり、
こっち行ったり……こっちと思や、あっち……畜生、くそ
くらえ！

彼は酒を注ぐ。

マニユエル ハンスは時をかせごうとしていた。そうせのうちシンプソ
ンが事実を嗅ぎつけるだろうってことはわかっていた。で
も時にハンスは裏切られたんだ。それで……え？ ……ハ
ンスが？ ……何だって？

マニユエルとエリアーヌはダンスをしているかの様
にその場で回る。インディオは彼女の囁きを聞く。

ベルトランは最後の一口を飲み干し、もう一杯酒を
注ぐ。突っ立ったまま狎の様に怒っている。

ベルトラン 時にハンスが裏切られたんだって！ 俺たちだって裏切ら
れたんだ！ もう沢山だ！ 俺はずらかるぜ！ 今度は文
句ないだろう！ あんな畏ぐらいでダイナマイトで吹っ飛
ばしてやらあ！

彼は素早く部屋を横切り、去る。マニユエルはエリ
アーヌの肩を掴んで、顔を見る。SSの制服がこの
状況にぴったりあい、彼は本物のナチ以上だ。

マニユエル ハンスは何て言ったんだ？ 一緒に発とうと言ったのか？
で、あんたは？ 何て答えたんだ？

エリアーヌ 発ちましょう、ハンス。発ちましょう、発ちましょう……
発ちましょう……

エリアーヌは「発ちましょう」を瘻れんしたように
繰り返しながら、マニユエルに抱きつく。マニユエ
ルは手首を掴んで抱擁をとく。

マニユエル よし、発とう。(彼はハンスの制服をきちんと整える)どこ
へ行こう、エリアーヌ？

エリアーヌ ウシヤイアへ。

この言葉をフラグスタッドが「トリスタン」というように叫ぶ。エリアーヌはしがみついて接吻しようとする。マニユエルはその場でくるりと彼女を回し、ちようど拘禁服を着せるように彼女の胸を重ね、両拳が掴み合うように締めつける。

マニユエル　ウシャイア？ あんな焼けつけるようなところへ？　何故そんなに遠くに？

調子は厳しく乾いている、まるで警官が質問していると言う感じだ。

エリアーヌ　だってあなたを地の果てまで連れて行きたいんですもの。あそこなら誰もシンプソンなんて名前、知らないわ。パークントンも、戦争も。あそこならヒットラー直属のSSが過去を葬ることが出来るわ、すべての記憶を永遠に埋めてしまうことが出来る。

彼女の語調は張り詰めて強い。マニユエルが少し手をゆるめる。エリアーヌは振り切ってステージの段を降りる。中央に止まり若者の感触を確かめるように両腕をさする。

マニユエル　でも、発てるのか？

エリアーヌ　まあハンス、あなた「歩いてでも」って言ったくせに。

マニユエル　歩いてでも。

エリアーヌ　たとえ裸足になっても。

マニユエル　裸足になっても。一文なしでも。

エリアーヌ　一文なしでも。

マニユエルは動かない。マニユエルは書類を拾って、テーブルに置く。

マニユエル　ゼロからやり直すんだ。

エリアーヌ　贋のパスポートをかいましよう。髪を染めて、他の名前になるのよ。

エリアーヌは彼を鏡の前に引っ張って行く。

マニユエル　何て名前？

エリアーヌ　ホワン。あなたはホワン・アルマンツアア。私はローザ・

バリオス。

ベルトランが入って来る。

マニユエル　ウシヤイアにだって警官もいれば、税関もある。いいかい？
ホワンとローザの美しいお話はあつという間におしまになるよ。文なしのカップルなんか誰も手加減はしないだろうな。

エリアーヌ　私、ウイリアムから取り上げたお金があるの。自分のお金も。それに宝石も。ハンス、どうやってその先毎日毎日を暮らしましょうか。ウシヤイアにきつと何でもあるわ。愛、河、山々、教会、美しい日没も。他に何かあるかしら？　発ちましょう、ハンス。きつとみんなが私たちのことをこう言うわ、生活に壊されない愛の秘密を見つけたって。憎しみとかエゴイズムとか他人への怖れとか、生活を駄目にしてしまうものと二人は戦い、そして勝ったって。おかげで新しい人間が誕生し、奇跡が起こった……ありがとうホワン・ハンス……ありがとうエリアーヌ・ローザ。

マニユエル　エリアーヌはあ決してローザにならなかったし、ハンス・シルドクラフトはホンデユラスで手錠をかけられて終わった。……僕は約束の金はいらない。ただ知りたいんだ、一体何が起こったか？　……あなたは私をついに説き伏せ、私は宝石を受けとった。出発の準備はすべてととのった。そして、ある日……

子供を寝かしつけるようにマニユエルは優しく喋る。
エリアーヌ　いえ、ある晩よ、ウイリアムはコスタ・リカに行っていたわ……

エリアーヌは続けられない。立ち上が足早にビンとグラスが置いてある所へ行く。酒を注ぐ。

マニユエル　あなたのハンドバックは、宝石と預金通帳と小切手が入っていた……

エリアーヌは一気に酒を飲む。グラスを置き、三幕のはじめにパーキンソンとの場面で見せた緩慢な動作にまたなる。

エリアーヌ そう、私は全部、前もって用意しておいたわ。また同じ眼に会うのが嫌だったから……（肘掛け椅子に行って、背に寄り掛かる）クアラ……殴られ……殺され……私は……解ったのよ……

マニユエルは緊張して身体を固くし、両腕を椅子の肘に乗せへりをつかむ。

マニユエル うん……

エリアーヌ 愛は守らなけりや……恋人はかばうべきだわ……私はどうしても……

マニユエル うん……

エリアーヌ ハンスを救いたかった！ あなたを助きたい！ あなたと発つわ。さあ急いで。何も起こらないうちに。

マニユエルを抱こうと身をかがめる。

マニユエル 何で僕が危険だったの？

ベルトランは袋に食糧をいっぱい詰め込んで、何か売るようなものがあつたら袋やレインコートの大きなポケットに入れようと、物色しながら部屋の真中に行く。

エリアーヌ

ウイリアムが何故コスタ・リカに出かけて行ったか、その理由を私は知っていたわ。あの人はあなたが嘘をついているのではないかと疑っていた。それであなたの昔の仲間に出会ったのよ。私は、あなたが嘘をついているのを知ってたわ。

彼女はマニユエルの耳に口を寄せる。

マニユエル そう、僕は嘘をついていた。南米を歩き回ったのも仲間を探すためじゃない、仲間から隠れるためだ。戦争の終わり頃、僕は恐怖にとらわれ、仲間を裏切った。何人かをアメリカに売り、何人かをソ連に売った。僕が望んでいたただ一つのこと、戦争を忘れること、遠くに行くこと、それもうんと遠くに……

エリアーヌはゆっくりマニユエルから離れ、バルコニーから降りて、部屋の中央に行く。ベルトランは

反対側の客間の端に居る。

エリアーヌ 準備はすべてととのい、私たちは出発しようとしていた。

マニユエルは立ち上がり、バルコニーに寄り掛かって、こう言う。

マニユエル 行こう、エリアーヌ、僕について来るんだ！

エリアーヌは振り向いて彼を見て、叫ぶ。

エリアーヌ 話さなけりや…説明しなけりや…、ビル、話があるの

…駄目よ、ハンス、やめて！ (エリアーヌはひどい苦

しみの中でその場にもう一度身を置く。ベルトランは動かない。マニユエルは緊張し切っている。エリアーヌはソフ

アに倒れ込む。マニユエルは急いで下に降りて、そのそばに近づく。ベルトランは動かさず、ジッと見ている) ハンス

が殴り…ビルは床に倒れた…立ち上がろうとしたけれど…あの人の中に何かが起こって…私hの中で何かが

壊れるのを感じた…あの人は胸に手を当てて…掻きむしるようになっている…叫ぼうとしているんだけど…口

を動かすだけで声が出て来ないの…そして私を…見たわ…助けてくれて！ …あの人は長いこと闘ってい

た…助けてくれ！ 生きようとしてもがいている人をとても身棄てることなんて出きやしないわ…私はそこにい

た… (まるで誰かを支えている身振り) …ねえ、息をして、私が立たせてあげる…あなた随分思いのね…ハ

ンス…手を借してちょうだい…ハンス…私はハンスを探して、まわりを見まわした…そして私も心臓が破裂

しそうになったわ…もう倒れそうだった…でも私は…叫ぶことが出来たから…ありったけお大声で…

エリアーヌは叫ぼうとして口を開くが、声が全然出て来ない。うつ伏せになり、クッションで顔を隠し

て泣く。間。

マニユエル ハンスは答えなかった。もうとうに発ってしまったんだ。

金と宝石の入ったあなたのハンドバックを抱えて。ハンスは英雄なんかじゃなかった。やり手の、悪党の、SS

だった。そして彼はあなたの手で死を宣告された。かわい
そうなエリアーヌ！ 人間、恋物語に生きることなんか絶
対出来ないんだ。ハンスはクアラじゃなかった。

マニユエルはブロンドのかつらと軍服を脱いで、去
る。ステージの上で身動きもせずにはいたベルトラン
がエリアーヌのそばに行く。

ベルトラン あいつにこんなことを頼んじやいけなかったんだ。俺があ
いつに会った時から、あいつはいつもこうだった。どこに
行っても真実を知ろうとするんだ。そんなことをしていっ
たい何になるんだ！ 真実なんて、病気だよ！ さあ気を
静めて……あんたもあんたで頑固だからなあ。(優しく真似
をする) 手伝ってちょうだい、私、ハンスのことをすべて
知りたいの……シンプソンのことも……パーキンソンのこ
とも……。何ていう過去現れるんだ。さあ、鼻をかんで。

エリアーヌに自分のハンカチを渡して、食糧の袋の
中に、酒を探しに行く。

ベルトラン 酒、持ってってやるよ。一口飲まなけりゃ。

エリアーヌ あたし庭で遊びたいわ……薔薇とユリとデイジーが大好き
なの。

ベルトラン え、何だった？

エリアーヌ あたしデイジーになりたいわ。月に咲く花。空で輝いて……
まるで音楽……優しい音楽……

エリアーヌは舞台を歩く。ベルトランは舞台の端に
がっくりと座る。

ベルトラン 何てこった……あーあ。

エリアーヌか眼を離さずに、酒をラッパ飲みする。
マニユエルが現れる。長い靴、ギャバジンのレイン
コート、ボリビア風の帽子、とてもエレガントだ。
重そうな袋を背中にしよっている。動作はきびきび
と素早い。

マニユエル (ベルトランに) やりやがったな！ あんたもう戸棚の中
を全部ひっかきまわしちゃたんだな。僕は転がっていたガ

ラクタをいくつか拾って来たよ。

彼は荷物のそばに袋を置く。ちよつとエリアーヌを見る。

彼女は今、蓄音機のそばに居る。マニユエルはポケットから鍵のついた鎖を出して、ベルトランに見せる。

マニユエル さつきこいつを取り上げといたんだ。今度こそは出て行けるぜ。

マニユエルは急いでバルコニーの階段を上る。カーテンで半分隠れているのでよく見えないが、鎖の音などが聞こえる。

エリアーヌ 陽が昇り、誰かが海からやって来る。ほら、聞こえるでしょう？ あの声、詩人の声。……あれは声かしら？ それとも天使が歌を歌っているのかしら？ 天使が私たちのために歌っているのよ！ 私たちはひとりぼっちじゃないのよ、ひとりぼっちじゃないのよ！

エリアーヌが喋っている間に、仕掛けがゆっくり上がりはじ得る。やつと抜け穴の窓が見えて来る。かすかに雨の音が聞こえる。ベルトランは、エリアーヌを見たり、上って行く仕掛けを見たりしながら、ずっと酒を飲んでいる。マニユエルがバルコニーで身をかがめて、抜け穴の方を見る。

マニユエル 出られるぞ。さあ。行こう。

彼は降りようとする。

ベルトラン 駄目だ。発てないよ。

マニユエル マニユエルは動作を止め、バルコニーから振り向く。何だつて？ いったいどうしたんだよ？

ベルトラン (エリアーヌを指して) 見ろよ、あれを。このまま置いていく訳にはいかないよ。俺たちは何すみたいなナチじゃない。発てないよ。

エリアーヌは下手の前舞台の蓄音機のそばに居て、何かと話しているが解らない。

マニユエル 馬鹿馬鹿しい！ 俺たちがここに居ようと、発って行こうと、同じことさ。ここに俺たちが入って来た時から、もう狂っていたんだよ！

ベルトラン でもこんなじゃなかった！ こんなひどくはなかった！ お前があんな馬鹿なことをして、真実なんか知りたがったから、こんなことになったんだ。ほら、これがお前の言う真実ってやつだよ！

ベルトランはラツパ飲みをする。

マニユエル 分った。俺たちは人がいいもんな。SSじゃない。村で誰かに頼んで、連れに来てもらおう。イギリス行きの飛行機に乗せてくれるだろう。何処かの病院に閉じ込めてくれるさ。死ぬまで使える年金があるんだろ？（穏やかに話そうとするが、言っているうちに興奮して来る）ちゃんとうまくいくさ、この女ひとは。でもあんたは駄目だ、俺も駄目だ。俺たちは生きて行くために毎日毎日を必死で切り抜けて行かなきゃならない。だからここを発って行くんだ。

お前の言う通りだよ、多分な。でも外はまだ雨だ。ここは悪くないじゃないか。酒はうまいしな。何か足りなくなったら、ほら、あのデキスター商店がきつと運んできてくれるよ。

ベルトランは飲む。

マニユエル 俺たちは旅と一緒にはじめたんだろ。チワワじゃ俺たちのことを待ってるんだ。あんた、俺一人放り出すって手はねえよ、そうだろ、「タッチ」。何だかあんた、あの女みただぜ。チワワは夢じゃないんだ。また上からがんとやられるぜ。もう俺は、叩かれたり、つばを吐きかけたりするのはうんざりなんだ。

マニユエルはエリアーヌの拳銃を出す。

マニユエル 俺はもうひどい目にあわされっぱなしになっているのは嫌なんだよ。…俺たちだって武器はある。今度は反撃するんだ。こいつをぶっ放してやる。ぶっ放してやる。

マニユエルは喋り続けているが、もう何を言っていない。

るのかさえ聞こえない。エリアーヌが「トリスタンとイゾルデ」の愛の二重唱を音量いっぱいに上げたからだ。ベルトランは手に酒ビンを持って座っており、マニユエルはバルコニーのヴェランダに寄り掛かって立ったまま、口から泡を飛ばしている。二人が大声で怒鳴り合っているのが、口の動きでデフォルメされて見える。エリアーヌは踊ってでもいるようになゆつくりした足取りで横切る。ステージの上にあがって、一瞬姿を消し、手に花をいっぱい抱えて戻って来て、自分のまわりに蒔く。

音楽は依然としてボリュームいっぱいになっていく。

完

2016/9/19/mon